

学科	観光文化学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
宗教と人間	2・3・4	前期	選択	はい	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	「学生の授業評価アンケート」(学科10名)を見ると、受講動機としては「関心」が90.0%であって、他の動機はと「単位確保」が10%であった。ほとんどが宗教にちゃんと向き合って接することは初めてな状態であったことから、授業は受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第1に建学の精神である「感恩奉仕」との関係と目的を最初に明示した。具体的には、総合人間科学の科目として、専門分野の科学の基盤となる重要な「自己理解」と他者の宗教を理解する「人間性」に関わる科学であることを説明した。第2に、評価基準を明示した。授業の質評価を見ると、＜評価基準は明らかであった＞の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「7、3、3」で100%であり、否定的回答は0で、無回答も0であった。②「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、授業毎に、受講者が「自分の考え、感想、調べたいこと等」を記入した「自己学習記録」を提出し、次の授業で教員からコメント等を記されて返却され、全体に関わる事柄については授業中に教員から詳しい説明を受けるフィードバックが与えられるというシステムを作り活用し、授業への参加意識を高める工夫の一つとした。③ 総合人間科学の科目であり、それぞれの宗教の原点と特徴を理解できるように、現代の状況に翻訳するに当たり、具体的なメタファーや 例を用い、知識や理解を専門職との関係で蓄積できるように工夫した。④ 期末試験では、その準備の過程で、受講者が重要なテーマに関して自分の知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績を見ると、平均値は85.73点であった。分布的には、90点以上が40.00%、89～80点が26.67%で、理想的レベル(概ね80点以上)に達した受講者は66.67%であり、79～70点が33.33%、69～60点が0%で、標準レベル(概ね60点以上)のそれは33.33%であった。成績で見ると、知識理解はほぼ目標に達した。② 学生の＜知識＞＜理解＞に関する達成自己評価を見ると、それぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順(以下同)に「6、6、1」と「7、4、1」でそれぞれ100%と92.31%で、それぞれ否定的回答は0であったが、＜理解＞に関しては無回答が1人、7.69%あった。アンケートが試験前の実施であるが、ほぼ成績分布と平衡が取れていた。③ 専門分野での達成自己評価では、思考判断に関する＜判断する力＞に判断する力＞に関しては、肯定的回答はいずれも「7、4、2」で100%で、否定的回答は0であった。④ 専門分野でも意欲関心に関する＜意欲＞では肯定的回答は「6、5、1」で92.31%で、否定的回答は0であったが、無回答が1人、7.69%あった。② 学習量の評価を見ると、＜授業の記録＞＜1回30分以上の予復習＞と「4、5回」はいずれも15.38%であり、「2、3回」は、復習が15.38%、予習が23.08%、「6回」はいずれも23.08%であった。「0回」がいずれも3名で、23.08%である。無回答は、予習につき1人、7.69%あった。成績の差は、この差と比例しているように見受けられる。進め方に関する授業の質評価を見ると、＜学習の範囲や課題は明らかであった＞という項目で、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」(以下同じ)の順に「6、4、2」で92.31%で、否定的回答は「1、0」で7.69%あった。＜理解しやすい＞と＜学生の質問への答を得る機会＞では肯定的回答はという項目も、「6、5、2」で100%であった。＜参加の機会＞では否定的回答が「1、1」で15.38%で、肯定的回答は「5、5、1」で84.46%であった。④ 今後とも知識・理解を得られるような改善に向け、1)知識を整理できるようにプリントして配布すること、2)予復習の方法を具体的に指示すること、3)毎授業ですべての学生から回収しコメントして返却する「自己学習記録」(A4)から判断して、分かりにくい箇所はオープンにして理解の共有化を図る。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本となる総合的視点と人間性を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、まず、＜知識＞＜理解＞ではいずれも0%であった。専門分野の学習においても、数値は上がっている。すなわち、＜検討する力＞＜判断する力＞＜意欲＞いずれも0%であった。＜技術＞では「少し、全く」が「1、0」で7.69%あり、＜コミュニケーション、表現力＞では「3、0」で23.08%あった。＜倫理・規範＞に関しても「1、0」で7.69%あった。② DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価では、グローバル化時代の人間性と社会性を支える広い教養を身につけるための＜知識＞＜理解＞、及び、ホスピタリティのこころを身につけ、責任を自覚し倫理に基づく行動ができるようになるための＜倫理・規範＞、及び、社会のニーズの変化に対応し自ら学び続ける＜意欲＞のいずれも、肯定的回答の「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「6、5、1」と92.31%であり、否定的回答がいずれも「1、0」で7.69%であった。これに対し、課題を解決のための論理的思考・判断にかかると＜検討する力＞＜判断する力＞の否定的回答は、いずれも0%であるのに対し、＜技術＞の習得という専門分野の肯定的回答が「6、4、2」と92.31%で、否定的回答が7.69%であったが、適切な関係を形成する＜コミュニケーション、表現力＞に関しての肯定的回答は「5、4、1」で76.92%で、否定的回答が23.08%であった。③ 以上から、コミュニケーションは70%台であったが、それ以外では、CPの位置づけから肯定的回答は非専門と非技能表現の分野でも専門と技能表現の分野でも90%以上であり、授業内容は妥当であると考ええる。また、DPの位置づけからも、肯定的回答は、非専門と非技能表現の分野と、専門と技能表現の分野とにおいて同様なことが見られ授業内容は妥当であると考ええる。すなわち、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけについて、授業内容は妥当であったと考ええる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。	学生からの担当教員へ日頃の意見は、知識と理解に関しての難しさにあるが、いわゆる重要事項を暗記し正しい答を選択するという内容の授業ではなく、「自分の大切さに気付く自己理解」それと同様に「他者の大切さに気付く人間性」を軸に、現代の状況に照らして問題を投げかけ共に考える授業を行った。これまで見てきたように知識と理解力では、否定的回答が0であるから、今後も、復習しつつ前に進む授業と心がけ、学生とともに進む授業を工夫したい。② 学習量の評価を見ると、先に見たように、＜授業の記録＞＜1回30分以上の予復習＞と「4, 5回」はいずれも15.38%であり、「2, 3回」は、復習が15.38%、予習が23.08%、「6回」はいずれも23.08%であった。「0回」がいずれも3名で、23.08%である。無回答は、予習につき1人、7.69%あった。進め方に関する授業の質評価を見ると、＜学習の範囲や課題は明らかであった＞という項目で、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「6, 4, 2」で92.31%であった。＜理解しやすい＞という項目も、＜学生の質問への答を得る機会＞も肯定的回答は「6, 5, 2」で100%であった。＜参加の機会＞では否定的回答が「1, 1」で15.38%あり、肯定的回答は「5, 5, 1」で84.62%であった。③ 今後も知識・理解を得られるような改善に向け、1) 記録しない学生への対応として、知識を整理できるようにプリントして配布すること、2) 予復習の方法を具体的に指示すること、3) 毎授業ですべての学生から回収しコメントして返却する「自己学習記録」(A4)から判断して、分かりにくい箇所はオープンにして理解の共有を図る。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、評価基準を明確にすることは今後も必要である。最終的に試験を受けた者が全員単位を取得できたが、より明確にしたい。② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。しかし総合人間科学としてのこの科目は実学であって、この科目で諸宗教を学び習得する知識理解を応用乃至適用する学問が、まさに 学生が学ぼうとしている専門分野であり、その専門分野での＜的確に判断する力＞及び＜その学びを深めたいと意欲をもつ＞ことの基盤となるものである。つまり、この科目の知識理解を増すことは、専門分野での判断力及び意欲の基盤を広く強くするものである。＜授業の進め方とその向上について＞記載した改善策に取り組み実学としての成果を上げていくことが今後も必要である。③ 以上から、授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、評価基準を明確にする。授業を進めるに当たっては、板書とプリント配布を活用し、予復習の方法を具体的に指示すること、学生から回収する「自己学習記録」から授業の理解の共有に役立つ指導を今後も工夫することが考えられる。
-----------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ジェンダー論	2・3・4	前期	選択	いいえ	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	ジェンダーに関しては、身近な問題でありながら意識されていない場合が多い。そのため、最初の授業でCM映像やアニメや絵本などを教材として使用し、学生の関心を高めた。その後の授業でも、講義以外の生活の場でも学習の目を向けるよう教材を選んだ。観光文化学科であることから、国際的な視野で日本の現状の課題を考えられるように教科書を活用した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	達成された			
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績 (トータル成績、行動目標あるいはDP別) の平均値や分布 (標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業の中で、提出されたミニレポートでは、ほとんどの学生がジェンダーを自分の問題としてとらえる力は身につけていると思われる。ただし、試験の結果に関しては、上位者と下位者の2極化しており、自分の言葉で表現する力の差によるものと思われる。また、試験の不合格者は全て試験の欠席者であり、下位者においても基本的な知識の理解は達成したと判断している。授業の感想においては、現代社会におけるジェンダーをめぐる諸問題に関心を持ち、自分の考えを述べることで思考力が確認された。選択科目であり、テーマに関心の高い学生が集まったため意欲関心は高かったと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	試験結果から、一部の学生においては現代社会におけるジェンダーをめぐる諸問題を歴史的、構造的、国際的への理解が不十分ではあった。しかしながら、志向判断や意欲関心については、達成されており、よって、おおむね内容的妥当性は認められる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生から「教科書は不要であった」という意見が出ていたが、原因は映像資料やデータ集を使用し、ミニレポートなどにも時間を割いたためかと思われる。しかしながら、教科書の内容は講義ごとに板書にて確認し、試験問題も教科書に準拠しているので今後も教科書は必要である。 思考を深めるために学生との意見交換は必要だが、今回は、おおむねミニレポートなどの文書でのやり取りになった。今後は、ワークショップ形式をもっと取り入れて、授業中での意見交換を活性化していく必要がある。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	ジェンダー論については、もともと知識のある学生と全く初めて接する学生に分かれていたが、最終的には基礎的な知識を身につけたものと思われる。今後は、自分の言葉で人に伝える力を得ることが課題である。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	金谷 めぐみ

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
西洋の音楽と文化	2・3・4	前期	選択	はい	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	配当学年は1年生から4年生であり、履修者全員が2年生であった。1年次のチャペルで讃美歌に親しんでいたため、讃美歌についての解説を授業の導入とした。さらに、クリスマスの讃美歌など、歌い馴れた曲のルーツを辿ることで、関心をもって西洋の音楽と文化を学べるよう、授業の内容を工夫した。また、音楽だけでなく、教会の映像を鑑賞することで、各時代の西洋の文化について理解を深めることが出来るよう準備した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は80点であり、再試対象は0名であった。約半数が理想的レベルに達した。(理想的レベルは80点以上に設定)。学生による授業評価において、到達度自己評価の平均値は4.0であったことから、教育目標はやや達成されたと考える。履修者の多くがキリスト教音楽を文化として認識し、新しい知識を獲得したことで、達成感に結びついたと考えられる。また、1年次のチャペルへの参加経験により、礼拝と音楽の関係を学習できたことも、達成感につながったと考える。今後は意欲関心をさらに高める工夫をしていきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性:本科目は、学科横断的科目であり、一人ひとりが異文化に意欲関心を持って、基礎的知識を獲得し、音楽文化を多角的に理解し、総合的・分析的視点で学ぶことができるよう工夫しているため、内容的には妥当であると考え。②DP.行動目標からみでの内容的妥当性:受講動機をみると、「関心のある内容である」が75%と一番多く、次に「単位数を確保する内容である」が50%であり、達成度自己評価では、知識の確認および修正、獲得が4.0と、他の項目に比べて高かった。③学科の特性からも西洋の文化について正しい知識を得ることは必要である。以上のことから、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業評価における授業の質評価の平均値は、4.0点であり、授業の内容及び、ねらいが学生に伝わったと考えられる。授業の最初に讃美歌を歌う時間を設け、音楽体験を取り入れることで、学生の参加意欲を高めた。アンケートの自由記述には、「讃美歌を歌うことが楽しかった」などの記述が見られ、音楽体験と授業における知識を一致させることができた。学生自身が自分なりの視点をもって授業に参加できるよう、授業のねらいを具体的に確認しながら進めた。そして授業の感想および、疑問に感じたことを書かせ、それらを差しさわりのない程度に公表し、全員で共有した。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	西洋音楽の歴史的概観を捉え、基礎知識の獲得については概ね達成できたと考える。昨年度課題とした、知識理解だけでなく、思考能力を養い、意欲態度の向上、および内容のさらなる充実を図っていききたい。本科目は西洋の音楽と文化について学習することによって、キリスト教音楽について理解を深め、音楽をとおして多種多様な文化、日本の音楽文化のあり方についても、発展的に学習できるよう、授業内容の充実を図りたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
行動科学	2・3・4	前期	選択	はい	60

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講生との対話ある講義を心掛けたいと準備した。講義の導入に当たり学生の興味・関心のある内容を話すために、毎講義の最後に本時の講義に対する感想や質問を書いてもらうことにしている。本時終了後にその内容を精査して回答や問題定義を考えて講義に臨んだ。このことでスムーズに講義の内容には入れた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	今年はかなりの多人数の講義だった。これに対する評価は一定の成功を示していると思われる。それは以下の3点においてである。①成績評価のほとんどが平均以上の結果を出している。②自由記述の欄に、「わかりやすく、面白い講義であった」と講義者の狙い通りのコメントが見られた。③学生の出席状況からみて、欠席傾向のあるものを除けば、95パーセント以上の学生が講義15回の90パーセント以上の頻度で参加していることは学習意欲の高さが示唆される。ただやはり教室環境が狭い印象であり学生には申し訳なかった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	講義の経験は多いけれど、今年度も達成状況の総括的評価は3段階A,B,C評価のBの中であつたように思う。授業者の体調、意欲、内容の鮮度。それに受講者の体調や意欲と能力、抱える日常の悩みなどが微妙にからみ合う相互行為である。なそうとしても良い授業ができない場合もある。しかし良い授業ができたときはすぐわかる。終了後に出ていく学生の顔に如実に表れる。本年度もその数においてやはりBの上であつた。努力を重ねたい。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	シラバスで年度当初の学生に期待した行動目標は概ね達成出来たと思う。しかしまだ授業中に集中力が途絶える学生が幾人か存在する。注意の仕方に工夫をくわ えてきたが、全員をかなりの集中度に持っていくのは容易ではない。今年度取り組んだ映像や教師の発問、討議話題の挿入などまだ工夫の余地を継続して続けたい。 がんばりたいと思う。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	講義の道を究めるのは厳しい。今年度の達成状況の総括的評価はやはり3段階A,B,C評価のBの中ではなかろうか。授業はアートというのが私の持論であるが、授 業者の体調、意欲。内容の鮮度、それに受講者の体調や意欲と能力、抱える日常の悩みなどが微妙にからみ合う相互行為である。なそうとしても良い授業ができな い場合もある。しかし良い授業ができたときはすぐわかる。終了後に出ていく学生の顔に如実に表れる。本年度はその数においてやはりBの上であった。努力を重ね たい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康科学	2・3・4	前期	選択	はい	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講者はなく開講されなかった。 健康に情報は近年メディアを通して日常的にかつ断片的に触れていので、トピックス、ダイエット、体作りを取り上げながら、自己を含め人の健康管理をする上で必要な知識を理解できるように授業計画を構成した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	観光文化学科の学生に取り、新鮮な知識として受け取られていると考える。関心と成果のギャップを埋めるよう、授業目標の達成度の程度を高めるような方法を取り入れた。また、教科書以外の資料をインターネットを利用し、配布やアンケートの回収を行い工夫のポイントを拡大したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「総合人間科学科目」であるが、自己の健康管理及び学生生活においても必須の基本的知識である。また、生活信念、健康志向、美容的自己管理においても大きく関わりのある科目内容である。文系の学生にも妥当な内容である。 ②DP、行動目標からみた内容的妥当性 昨年までの成績の達成状況から、方法的妥当性は十分あると考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	次年度に向けて、思考判断の行動目標をより具体的に示し、テストの出題要 点を事前に提示するなど、その内容を検討して授業に参加を促したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	健康管理、健康づくりの基礎的知識の形成、予習課題の提示など、改善を 図りたい。 毎回のねらいを具体的に示すこと、可能な限り単元毎のまとめの時間と 取り、復習課題を意識的に提示するようにしたい。 配布物に対する学生の意見を取り入れ、常に改善を行いたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	東野 充成

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
現代社会と統計	2・3・4	前期	選択	いいえ	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	統計の基礎的な知識を獲得させるとともに、簡単な統計の計算及びグラフ化や図式化できるようになること、現代社会の代表的な統計についてその内容を紹介することに重点を置いて準備を行った。学生の受講動機は、半分が「関心のある内容だから」というものであったが、できるだけ、観光文化学科の学生の関心に沿うよう、統計を紹介する際には、観光や旅行に関する統計を主に用いた。また、昨年度は、多変量解析など複雑な統計も取り扱ったが、専門ではない学生にとってはむづかしすぎたようなので、今年度は基礎的な統計の知識の獲得に力点を移した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	履修者全員を合格させることができた。また、学生から提出されたレポートも、内容面、表現面で、すべて基準を満たすものであった。特に、相関係数の計算など複雑な課題も、全員が達成することができた。学生からのアンケートでも、「自分なりの目標を達成した」という回答が半数を超えているとともに、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」という回答も、20名中14名が「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」と回答している。また、「インターネットのホームページを検索し、利用した」と回答した学生が20名中18名に達しており、レポート課題の作成にあたって、積極的に情報を収集したようだ。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業の内容に関心のある学生が半数を超えており、また、上述したように、学生の学習到達度の自己評価も高いものであったので、DP、CP、カリキュラムマップにおいて、妥当なものと評価する。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生からの意見はなかったが、より学生が、エクセルなどを使い、統計の計算を体得できるよう、こまめにレポート課題を出すなど、自学自習を積極的にできる構成にしていきたい。内容面では、今年度に引き続き、基礎的な知識の習得と統計の表現能力の育成に力を入れたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	当初想定したより、多くの学生が内容に興味をもち、また高い自己評価をしていた。実際、学生から提出されたレポート類も、すべて基準を超えるものであり、基礎的な知識の獲得と、エクセルなどを用いた統計の図式化という点に関しては、達成できたと考える。一方で、情報の収集がインターネットに偏っており、ローデータを用いた分析までは及ばなかった。今後は、ローデータをどのように加工し、現象を統計的に理解することができるのかに力点を置いた授業展開をこころがけていきたいと考えている。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	三浦 元喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報の表現法	2・3・4	前期	選択	はい	4

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施にあたっては、情報の表現や構成に関する知識に加え、技能をしっかりと身につけてもらうことに重点をおいている。 ただし、単なるPowerpointやExcelの使い方で終わるのではなく、より汎用性の高い知識・技能を身につけてもらうため画像を含めたWebページの作成や、簡単なプログラミングをとりいれている。 知識定着に関しては、授業内で小テストを頻繁に実施したり、期末の確認テストを行ったりしている。また、講義での説明資料をすべてWeb上で閲覧できるようにしている。 技能定着については、授業内での円滑な演習と、授業時間外の活動がシームレスに行いやすいように、Webブラウザ上での演習環境を提供している。 また、Powerpoint/Excel/Photoshop Elementsの課題演習と、Webページ作成/Processingプログラミング作品作成のグループ活動および発表会を実施した。 受講生の6割強が、受講動機として「資格取得に必要である」ことを挙げている。あと、「単位数確保」「関心のある内容」が主要な動機である。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	回答人数が少ないため、十分な根拠は示しにくいですが、到達度自己評価において、「(8)コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の中央値が4.0、「(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の中央値が5.0と、高いことから、教育目標は達成されたといえる。単なるPowerpointやExcelの使い方で終わるのではなく、より汎用性の高い知識・技能を身につけてもらうことを狙っていることから比較的難易度が高い講義内容であったが、ほとんどの到達度自己評価の中央値は、5段階評価の3番目にあることから、受講者は学習内容について、ある程度の自信をもつことができたといえる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Processingプログラミング導入によって、コンピュータで扱える色の特性や、図形による表現を体験的に学習できるため、利点があると考えている。 アニメーションやインタラクティブな表現については、ある程度高度な知識が必要となるが、学生は興味をもって、自発的に学習や演習に取り組んでいたので、今後もぜひ継続していきたい。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質の評価」において、すべての項目の中央値が5.0であることから、授業の進め方に問題はないと言える。平成30年度から、一部の資料は紙で配布し、学生がメモをとったり参照しやすいようにした。受講者数がすくなかったため、質問やわからない点に対する対応が十分にできた。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	* 総括的評価 * 比較的難易度の高い内容を扱っているが、学生に講義の方針や意図が十分に伝わり、自信につながっていることが、自己評価の結果に現れている。 * 課題 * 受講者のコンピュータスキルやリテラシーのばらつきによる影響をなるべく排除していきたい。H30年度は、プログラミングエディタにおいて自動補完機能を導入し、入力時の負担を軽減できるようにした。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	神崎 明坤

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
中国の社会と文化	2・3・4	前期	選択	はい	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①2年生から4年生までの総合人間科学の授業であるので、授業の最初に中国への理解や学習準備状況の確認アンケートを行い、不足の項目に△△を新たに加えた。 ②国際的視野に立って中国のことを幅広く学び、考えながら、異なる社会文化に触れていった。15回授業にそれぞれ異なる内容の勉強により、より深く異文化理解をしてもらった。 ③中国社会文化に関心を向上させるために、10回目にレポートを提出してもらっていた。 ④学習状況を確認するために15回目にテストを行い、学生の意欲を高めるためである。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は85点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね90点以上として試験を作成)に達したものは7名となった。 目標別にみると、知識理解に関しては学生による授業評価においては授業の課題以外に具体的に取り組んで学習はPCで調べたり、学生のそれぞれの関心問題ー中国の科学・教育などに関心問題を調べたりしたことが示された。これは学生が思考判断で何が問われているかを提出されたレポートは幅広い領域に亘った豊富な内容であった。但し、授業の課題以外に学習していない理由については「なにをすればいいか分からなかった」、「特にすることがなかった」などの自己評価が示された。これは、勉強に積極的、自覚していなかったことが考えられる。次年度に向けて明確に指示・指導しなければならないと反省点が考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP、CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は総合人間科学の科目であるが、総合的な視点と豊かな人間性を養うための教養教育科目の位置づけ、学習者の国際的社會文化を修得して国際的な視野を広げ、多様化、多様性を複眼的に備える人間の育成の内容的には妥当であると考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量評価において、授業の課題以外に学習していない理由としては、配布された資料がなかったから、何をすればいいかわからなかった。特にすることがなかった、等が挙げられた。次年度に向けては、まず学習量・範囲をより具体的に示したうえで、学習時間・学習量・方法を事前に提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	総合人間科学にあたる本科目の位置づけから教養教育グローバル化社会に臨んでいる大学生としての教養を得ること。中国社会文化を学習すると同時に、関連する日本の社会文化などを理解してもらうこと。 以上から毎回の狙いを具体的に示すこと、可能な限り考える時間を取ること、復習課題を意識的に提出できるように、工夫を凝らしていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	後藤 宇生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活と経済	2・3・4	前期	選択	はい	4

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	新しい経済学をゲーム理論の視点から提供すること
---	-------------------------

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績分布から判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	ゲーム理論のアルゴリズムの訓練などは、講義中に何度も行なった。知識理解はできていると考えている。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	講義内容に関する映像資料(NHK オイコノミア)を見せ、イメージを伝えてから、具体的な内容に入った。今後も、同じ方向性で講義を行って行きたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	理論偏重にならないように工夫したいと考えている。
------------------------------	---------------------------------

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
現代と教育	2・3・4	前期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は興味関心によるものが単位のために上回っており、例年とは傾向が異なる。ただし、授業は歴史的事例の検討が中心となるため、いかに興味を持ってもらうかが授業準備段階のねらいであった。 そのために、導入部分に学生の体験を結びつける現代的な遊びの特徴を設置した。男の子の遊び、女の子の遊びを比較しながらその特徴をとらえ、共通点と相違点から見える現代の遊びの様相を大まかに理解させる教材を工夫した。今期は「妖怪ウォッチ」のような大ヒットした遊びがないため、ポスト妖怪ウォッチについて新しいテクノロジーとの関連から紹介し、学生の遊び体験とどのような点が変化してきたかに興味を持たせ、その後の過去に遡った遊び文化の歴史的展開への土台作りを心がけた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全学科平均点75.5点。観光文化学科平均73.5点。秀1、優3、良1、可3。 成績上位層と下位層が二極化する傾向にあるが、不可がないことは評価できる。 欠席が目立つ者が複数いた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	例年の傾向からすると受講動機の側面からいえば、単位のために受講しているところから出発している。しかし、学科の位置づけからすると、社会/文化/歴史に触れることは不可欠である。また、教職課程在籍者も含まれるため、教職教養としての意味も大きい。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	興味関心が単位取得の動機を上回っていることが、例年に比べ成績上位層を厚くした要因だと考えられる。 今回の授業改善のポイントとして、出題する問題形式の形で授業内容の理解をするよう促した点にある。授業を行った内容について、例えばこのような問われ方をするというまとめプリントを配布した。このやり方は例年も行っているが、今回はまとめプリントを記憶しても役に立たず、プリント内容をこの程度まで理解していれば問題文が変わっても対応できるし、そのような理解の仕方が必要だという解説を行った。 具体的イメージしにくい箇所については例年通り、以下の様な取り組みを行った。 (1)江戸時代の解説という高校の教科書的な補足ではなく、テーマと関連して理解すべき時代の特徴を代表するエピソードなどを通じて理解を深める教材を準備する。(2)画像、動画、実物教材など、見て聞いて触れる学習機会を増やす。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	テストにはただ資料やレジュメを見直すだけでは対応できず、授業中の解説等を聞き、ノートを取らないと対応できない問題も複数含まれていた。その上での好成績という結果は、学生がある程度授業に集中してくれたことが原因だろう。今後とも学生の興味関心を喚起できる授業を心がけたい。 次年度も今年度同様の理解度が期待できるとすれば(興味関心という動機づけが必要だと思われる)、現代社会の理解のスキルを向上させるというより応用的な側面にも働きかけたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
人権と社会	2・3・4	前期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①シラバスを一部修正した。前半では差別問題に関する部分を変更し、後半に男女共同参画の問題を取り上げるという改変を行った。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績の平均は86.67と好成績であった。しかし、9名という受講者数なので統計的な意味はない。 ②到達度自己評価は各項目において平均値が4.0～4.4と高く、中央値も過半の項目で5.0となっていて、学生は達成感を強く持っている。成績がよかったことは教育目標が達成されたと言えることができる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	現代社会における教養として必要な内容なので、カリキュラム上の位置づけは問題ない
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	評価基準や質問の機会について1名の不満があったが、いずれも十分に対応しているので、問題はないと思うか。しかし、そう思った学生がいるということは情報提供に工夫がいるのかもしれない。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	①差別解消三法が行政的な実効性を持たなければならなくなってきたので、その内容を膨らませたシラバスの改訂を考えている。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	劉 明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ホスピタリティ論	2	前期	必修	いいえ	65

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機をみると「必修科目である」83.3%、「関心のある内容である」16.7%、「単位数を確保する」8.3%となっております。もっと学生の関心を引き出し、も シラバスの作成や授業の準備に工夫する必要があると思う。 ②最初の授業にシラバス内容の確認や学生との意見交換を行った。 ③演習の7回目に小テスト(レポート作成と発表)を行い、学習状況と学生の意欲・能力を確認するようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は84.9点であり、再試対象は0名であった。全員が理想的なレベルに達したと思われる。 目標別に見ると、知識理解に関しては91.6%、態度に関する問題も91.6%であった。それぞれの目標が達成されたことを示している。 学生による授業評価においては、知識理解、態度の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。 図書館の利用に関しては、13.3%で、インターネットの利用に関しては、21.6%で、図書館とインターネットの利用については、さらに指導することを考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解、態度に関する達成度が理想のレベルに達していることが示されているし、内容的には妥当であったと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「ホスピタリティ論」となっており、インバウンド観光におけるホスピタリティを勉強しているので、「観光産業界での就職」をつなぐ要の位置にある。学生も良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、評価が良かったが、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」と思っている学生 数が90%であった。次年度でも、引き続き学生が積極的に参加することが出来る機会・環境を作っていきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	「観光産業界での就職」をつなぐ要の位置にある「ホスピタリティ論」であるから、学生がもっと積極的に参加する機会・環境づくりを図りたい。 また、学生の知識理解、態度を高めるために、授業中に話し合う、発表を行う時間を増やすようにしたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	江田 康子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
現代ビジネス人材論	2	前期	必修	いいえ	65

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機が「必修科目である」が96.4%と高いが、卒業後の夢や目標を叶えるためにも必要科目であることを理解させながら授業を進めた。 ②オリエンテーションでは、学生に夢や目標をプレゼンさせ、リクナビ・マイナビを使い企業研究をさせレポートを提出させた。その研究項目に現代の働き方と企業価値を高める方法を加えた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①最終的な成績の平均値は72.95点であり、80点以上は19名。70点～79点は18名、追試験者2名、再試験者0名(40点台)であった。 ②授業終了後、多くの学生が挨拶をして帰る。人と関わろうとする力、質問に対して誠実に答えようとする力、けして自己表現力はまだまだ豊ではないが、人を受け入れる力を多くの学生が持っていた。しかし現時点のレベルでは、これからの企業面接を受けるレベルとしてはまだ力不足のところがあり、「やや達成された」にした。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP1、カリキュラムマップ上の位置づけからみて内容的妥当性 DP1とカリキュラムの内容について、知的理解は72.95点。ビジネス系の検定試験の合格ラインは60点を鑑み、内容的には妥当と考える。 ②DP4、行動目標からみての内容的妥当性 模擬面接の実施、各学生をビデオ撮影、フィードバック、各学生の今後の課題の発表。授業の最初と最後、礼で始まり礼で終わる。群衆教育の実施。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	①教室が縦長のため、学生が後ろに座る傾向があり、前に座るよう指示するがその授業だけ前に座り、次の授業からは後ろに座るという状況でした。次年度は席次を決め授業を行いたい。 ②「授業の終了時間を超えて授業するのはやめて頂きたいです。次のコマに支障が出ます」学生からの記述です。DP4の模擬面接の授業の際、時間がオーバーしました。次の授業がある学生は退出してもよいという指示が遅れました。時間内で終わるよう改善いたします。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	①社会人としての知識は概ね達成できましたが、次年度は席次の決定と時間管理を行っていきます。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	高橋 幸夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
マーケティング入門	2	前期	選択	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	マーケティングは、実際の企業経営の中心課題であることは周知の事実であるが、本学科のカリキュラムには「企業とはなにか」「企業経営とは何か」「経営入門」等のマーケティング以前の基本カリキュラムが設置されていない(2018年新カリキュラム実施により経営学入門科目が導入されたのでこの記述は現2年生以上の学生に適用する)。その為、学生の興味喚起のために観光・旅行系などの企業経営、北九州市などの自治体など団体組織におけるマーケティングの役割の理解に重点をおいている。また、マーケティング興味・理解を促進するため関連するコマーシャル、ビジュアル等をPPTに多用している。学習準備性については、上述のように企業組織・経営の基礎理論を学習したことのない学生にマーケティングへの興味・理解をさせるために新聞・テレビなどの経済経営記事に慣れ親しむ事を学習準備として示している。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	この授業は上記授業準備で述べた通り、体系的なカリキュラム構成による「経営・組織知識を習得したうえでマーケティングの理解」が困難なため、あくまでマーケティングという学問への興味を促進することを大きな目的としているので、映像情報、ビジュアル情報など多用し、興味から学習意欲の向上を促した。アンケート結果からは、到達度自己評価においてはほぼ達成したが、情報利用、学習量などの少なさが目立つ。今後はこの点の改善を図る。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機、学習到達度の自己評価、自由記述の意見より本科目自体の内容的妥当性はあると評価できるが、本年度履修生については基本的問題としてマーケティングの基礎知識としての経営学を学んでいない(現2年生以上)という、カリキュラム体系上の欠陥から、厳密な内容妥当性ではないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	アンケート結果や自由記述内容により授業の進め方については問題ないと考えているが、改善点としてはディスカッションを取り入れ、コミュニケーション力、表現力 向上等も検討したい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	科目目標はやや達成されたと思われるが、学習量Oが受講生に多くいるため課題、レポートなど工夫したい(レポート課題提出1回実施)。ただし、新カリキュラム編 成となった2018年度以降については経営学の基礎科目(経営学入門)が導入されたので、それ以降(2019年度)に本格的に学習量の向上を図るために導入を試み たい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	那須 省一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
TOEIC演習C	2・3	前期	選択	いいえ	40

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機の多くは「単位数確保のため」と「TOEICに関心あり」というものだったが、「資格取得に必要」と記した学生も少なからずいた。TOEICは制限時間内に与えられた問題にいかにも迅速に、的確に答えるかというテスト。高得点を上げるには語彙力を増やすだけでなく、出題のポイントを理解し、要領よくさばっていく慣れが肝要。「場数を踏む」ことが大切ともいえる。それで、授業では受講生にできるだけ数多くの問題に触れさせた。その上で6、11回目の授業では小テストを実施し、学生の理解度を確認するとともに、寸評を付記し、激励した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された					やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	小テスト実施時の理解度と最終の定期試験時の理解度を比較すると、大半の学生が大幅に理解度をアップさせていた。全体において目標は達成したと考えている。学生の到達自己評価を読むと、大半の学生が「まあまあそうだと思う」以上の自己評価をしている。「授業の質評価」の項でも9割を超える学生が一定の評価を与えてくれている。ただ、学生が授業に「参加」する機会が少なかったことに不満を感じていた学生もいたようで、これは大いに反省したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	好むと好まざるにかかわらず、TOEICである程度の高得点を獲得するのは多くの就職活動の場で求められる時代。妥当だと思う。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生アンケートの中に「楽しい授業でした」と書いた学生がいた。大いに勇気づけられた。今後の糧としたい。その一方「どれが正解なのかよく分からないことが多かったです」と書いた学生もいた。彼女には授業の進め方が早かったのかもしれない。大いに反省するとともに、学生がそう感じることはないように、授業方法をさらに工夫していきたい。また、この授業のために講師個人のGメールを設け、積極的に質問・要望を寄せてくれるよう訴え、何人かの学生からは質問を頂き、丁寧に答えた。しかし、本音を言えば、学生にはもっとこのメール欄を活用して欲しかった。この点もさらに工夫したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	シラバスの授業概要欄で、「将来ビジネスで使える英語力として、少なくとも在学中にTOEIC550 点を目指す基礎固めを行なう」と記した。授業内容はその線に沿って進めており、定期試験の成績から判断すると、概ね、目標は達したと思う。学生アンケートでは図書館やインターネットを学習の参考に活用したと回答した学生は残念ながらごく少数だった。この点でも学生にどう働きかけたら、彼女たちが普段から自ら英字メディアに積極的にアクセスし、英語力(日本語力)を身に付けるようになるか、考えていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	八尋 春海

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
海外旅行実務	2	前期	選択	はい	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本来は国家資格取得のための科目であるが、ほとんどの受講生が国家資格を受講しないという事情がある。そこで、授業では国家資格とは無関係な旅行実務についての内容を取り入れた。学生の自由記述を読んでも、そのことが評価されたようであり、国家資格とは無関係でも学生には役に立っているようである。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	どちらともいえない				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	科目名は「海外旅行実務」であるものの、1年次に学んだ「国内旅行実務」が難しい内容であるため、国内についての復習をしながらの授業となったため、海外についての知識理解が十分には進まなかった。「国内旅行実務」にせよ「海外旅行実務」にせよ自宅における膨大な自己学習が必要である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本来は、「国内旅行実務」を完全に理解した上での「海外旅行実務」であるが、「国内旅行実務」の理解が十分ではないために内容が重複している部分がある。この点では、問題がある。カリキュラムそのものの問題ということになるが、なるべく授業内でその溝を埋めるように努力をしたい。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学生のコメントには否定的なものは全くなかったが、自分自身としては、この科目の受講を通してさらに多くの学生が国家資格受験を目指すようになってもらいたい。 そのためにもこの科目を学生にとってもっと興味深く感じられるものとした
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	受講生の評価は高かったが、以下を次年度の課題としたい。1 国家資格受験者の増加 2 国内ではなく海外旅行実務部分の内容の拡大
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	末廣 幸恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英文講読 I	2	前期	選択	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	教科書「Cultural Leaders in America Today 2」と「日本事象300選」は学科CPの英語・日本などに関するグローバルな知識と思考能力などを養う教材として適していると思われる。教科書の難易度の観点から、和訳の予習は不可欠な為、準備した和訳用紙を学生に配布し予習を徹底化した。和訳用紙には単語欄と和訳欄と評価欄を設け、各自で和訳用紙を作成するように指導した。また予習時における達成感および難易度を認識させるために、達成マークを評価欄に記入するように指導した。ちなみに達成マークはABC段階で表記した。この予習に基づき、授業において、予習した範囲の和訳を学生に発表させ、全員で確認作業を行い、和訳の修正および加筆を行った。この作業と同時に、授業では難易度の高い英文の文法解説、内容に関する補足説明を行った。予習用紙は毎回、授業後に回収し、各学生の学習意欲および理解度を確認する作業を行った。また学期末には完成させた和訳を全て提出してもらった。「日本事象」に関しては、予習として例文の暗記を指示し、毎回の授業で書きとりの小テストを行った。その際、事前に授業内で例文の文法や語彙の解説を行い、学生の暗記作業の効率化に努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された					達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値(評価50点満点:評価構成は和訳25点と英作25点)は44点であり、再試対象者は0名であった。単位数の確保のみならず、関心のある内容である事、また英語学習に興味があることを受講動機に挙げた学生が多いことから、真剣に授業に取り組む姿勢が見られ、クラスの雰囲気も大変良好であった。DP上の各項目においても、高評価が多かった。これは予習のチェックを厳しくした為、自分なりの目標を認識できたためではないかと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性: 英文の精読や英語で日本の生活を説明するなど、洗練された英語のインプットとアウトプットは本科目に相応しい内容となっていることから妥当性は認められる。②DP、行動目標からみての内容的妥当性: 授業内容から学生には高度な英語力が要求されたが、DPの到達自己評価は平均値をはるかに上回る高評価であった。これは受講動機にみられるように、学生の関心度の高さと熱意の表れとみられる。和訳作業のみならず図書館、インターネット等を活用し、情報収集が必要であることはシラバスにも明記されているが、これらを活用した学生はごく少数であった。オリエンテーションにおける、シラバスの説明の徹底化を図る必要性を感じた。学期末の試験結果と同様に、到達度自己評価が全体的に高い傾向にあるのは、内容への関心度、適切な課題量、授業における理解度等の要因が考えられる。またクラスの雰囲気も大変良好で、真面目に英語学習に取り組んでいた。以上から内容的妥当性には問題がないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価： 予習の徹底化と提出の義務化を図ったために、大多数の学生が高い評価を挙げている。予習に力を入れた指導により語学学習における予習の重要性を認識できたことがこの評価につながったと考えられる。②学習量の評価： 予習範囲の提出を義務付けていたので、大半の学生が予習にかなりの時間を充てていた。③学習のための情報利用、図書館利用： シラバスの記載を参考にした学生はクラスの約半数で、全員に周知するにはオリエンテーションにおいて、シラバスの内容を再確認し、授業の進め方を確実に伝える必要性を感じた。図書館利用者は1名であり、多彩な内容を英語で学習するためには情報収集も大切な語学学習の一つであることを指導する必要があると感じた。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	教科書の難易度は適切であり、全員が頑張って予習を完璧に行っていた。語学学習は英語力や興味に差のある学生をまとめ、より満足度の高い内容を提供し、適切な速度で進めるかが課題となるが、このクラスの場合は真面目に熱心に学習に取り組んだ為に課題はクリアーできた。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	薬師寺 元子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英文講読Ⅰ	2	前期	選択	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施にあたり大切にしていることは、積極的、且つ、能動的な学習態度を軸と致しました。①まず出席とレポートの提出が肝要であると強調致しました。②次に予習、復習を必須とし、特に予習に重点を置くように勧めました。③さらに、予習復習を徹底するためにノートを作り、その使い方を詳細に説明致しました。まず教科書の英文をノートに写し、和訳をし、新出単語を調べてくる。これは、ほぼ全員の学生が実行致しました。『授業以外に具体的に取り組んだ学習』の自由記述に、「小テスト前の復習」、「予習のノート作成」、「世界のニュースを見たりした」「多読」とありました。少々難易度の高いテキストを使用致しましたので、実際は、大変時間が掛かる予習だったと推測致しますが、皆一生懸命準備を致しました。『授業の課題以外に学習に取り組んでない理由』に「時間がなかった」、「課題で精一杯だったから」とありました。語学の学習は、繰り返しと忍耐力も必須ですので、沢山課題を出しました。④英語のReadingの授業ですので、授業に入る前に、自宅学習と致しまして次回の範囲を4回以上音読することを義務付けました。しかし、これは、あまり、実行されていなかったと推測致します。『受講動機』は、必修科目ですので、ほぼ全員真剣に取り組んだと判断いたします。学生の『自由記述意見』としまして、説明がとても解り易く、授業を受けやすかった」、「少し難しかったけど楽しかった」等が挙げられておました。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された					達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①全員が、標準的レベル以上に達し、最終的な成績の平均値は100点満点中のAクラス(83点)、Bクラス(76点)、であり、不合格対象者は4名でした。80点以上で、理想的なレベルに達したのは、31人名中17名でした。『学生の到達度自己評価』につきまして肯定的な解答は、(1)自分なりの目標を達成したのは17人中17人。(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることが出来た。これもほぼ100%でした。(3)事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることが出来た(100%)。(4)自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることが出来た(5)自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることが出来た。等ほぼ100%でございました。以上のように学生の学習に対する到達度自己評価は、とても高いです。(10)職業選択の参考になった、という点でも、肯定的な回答がほぼ100%という結果となっております。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①<CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけから見た内容的妥当性について> 本科目は人文学部観光学科の必修科目であります。昨今、グローバル化が進み、英語の発話力が問われてきました。しかしコンピューター時代に突入したため、それ以上に、正確な英語の読解力が求められます。精読により、語彙力、文法力を徹底的に修得することが肝要でありますので、中心的必須科目の位置にあるといえます。学生の本科目に対する到達度自己評価に、「知識を確認、修正したり、新たに得ることが出来た」、「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることが出来た」、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることが出来た」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることが出来た」等に関するものが、9割以上を占めていますので、本科目の内容的妥当性を確信致します。 <DP、行動目標から見ての内容的妥当性について> 学生が達成すべき行動目標は、1. 長文の読解が出来る。2. 習慣として英文を読むことが出来る。以上2点の事項が挙げられています。一つ目の「長文の読解が出来る」につきましては、『AFPで見る環境・健康・科学』という時事問題を中心とした教科書により、知識を広めながら、英文を確実に精読致しました。これにより、語彙力、文法力を強化できたと考えます。二つ目の「習慣として英文を読むことが出来る」ですが、DVDにより、まず視覚的に理解し、それから、長文を読むことにより、かなり、実践できたのではないかと確信いたします。 ③<まとめ>以上の点から、内容妥当性には全く問題はないと判断致します。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価につきまして、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」では、「まあまあ思う」と「わりに思う」と「かなり思う」を合わせると、100%であった。「期間内に行うべき課題は明らかであった」では、100%であった。「説明は理解しやすいものであった」では、100%であった。「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」では、100%であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、其れに答える機会がつけられていた」では、100%であった。以上総合いたしますと、ほとんどが、進め方につきまして、好意的でございました。一生懸命準備をし、取り組んで参りましたのが、効を奏したのだと存じます。今後も如何にすれば、解り易く、効果的な授業を進めることが出来るか、日々精進してまいります。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業中、あまり活発な発表はありませんが、ノート纏めはきちんとできていました。難解な教科書にしっかりチャレンジでき、予習復習も、しっかり出来ております。少数の学生を除けば、ほとんどの学生が、一生懸命授業に取り組みました。本科目に対する学生からの「担当教員への意見」と致しまして、学生のコメントは、「説明が解り易く授業もとても楽しかった」、「内容的に難しかったが、一つづつ丁寧に教えて頂けたので解り易かった」、「とても楽しく面白い授業でした」。以上のような学生からのコメントは、今後の私自身の、授業に対する励みになっております。 本科目は、「英語の精読」、「多読」、という2つの要素からなる幅広い教科でございます。その分、毎回の授業の準備に、資料集めや、プリントの準備、教科書の予習、復習など大変多忙な教科でございます。一応標準的レベルである「辞書を使って長文の読解が出来る」、「月3冊の英文の本を読むことが出来る」は、達成できたと判断致します。今後は「アンケート」で学生の意見を取り入れたり、「学生一人一人と直接コミュニケーション」をしっかり図りながら、勉強に対するモチベーションを上げていきたいと存じます。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	那須 省一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
時事英語入門	2・3・4	前期	選択	いいえ	60

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は「内容に関心がある」が「単位数確保」を上回っていた。時事英語の講座であることから、採用したテキストだけでなく、ネットの英字メディアで参考になるものをパワーポイントで活用しながら、最新の時事英語の紹介・解説にも取り組んだ。6回目と11回目の授業でそれぞれ20分程度の小テストを実施して、学生の理解度を確認しながら進めた。答案を返却するに際しては、寸評を記して、受講生の学習意欲を盛り立てた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された					やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	小テスト実施時の理解度と最終の定期試験時の理解度を比較すると、多くの学生が大幅に理解度をアップさせていた。再試対象者が何人か出たことは残念だったが、全体においては目標は達成したと考えている。学生の到達自己評価を読むと、全員が「まあまあそうだと思う」以上の自己評価をしている。時事英語の学習ではインターネット活用が大いに助けとなる時代だが、残念なことに、インターネットを利用したと答えた学生はごく少数だった。今後の反省材料としたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	時事英語に明るければ、どのような職業に就くにせよ、大きな利点・強みとなる。少なくとも入門講座で基礎を押さえるのは妥当な選択だと思う。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業中に「自分の意見をまとめる」「発表する」などといった学生参加の点で不満を抱いていた学生も少なからずいたようで、まだまだ改善の余地があったと反省している。今後の課題にしたい。授業アンケート欄で「英字新聞を読めるアプリを入れた」と記した学生がいたことには大いに励まされた。その一方で「訳を教えてくださいな いので困った」「Unitの訳をきちんと映し出して欲しかった」というコメントもあった。この点は十分そうしたつもりだったが、不満に感じていた学生がいたようだ。今後の参考にしたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	時事英語の入門講座としては基礎的知識を身に付けるという目的は概ね達成できたと考えている。ただし、受講生が授業にのぞむために図書館やインターネットなどを活用したことがごく少数だった。再びこのような授業機会が与えられれば、この点をどう活性化するか工夫を凝らしたい。また、この授業のために講師個人のGメールを設け、積極的に質問・要望を寄せられるよう訴えたが、ほとんど活用されなかった。この点もさらに工夫したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	須藤 秀夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
国際経済入門	2・3・4	前期	選択	はい	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	・大切にしていることは、①学生が国際経済の事象に関心をもつこと、従って、国際経済に関する記事に目が行くようになること、②今年起きている国際経済の出来事や最新のデータを示しつつ、どういう意味を持つのか理解させること、③経済事象Aが起こると、次にどういう経済事象Bが起こるのか、といった経済的な因果関係、連動の関係を理解させること、などである。 ・授業計画では、広く国際経済の諸事象を取り上げ、関心をもつこと、学ぼうとすることのきっかけを作ろうとした。特に、外国為替の部分、貿易政策の部分はポイントとなる旨伝えた。授業準備では最新の新聞報道などの情報やデータを伝えることに努めた。例えば、今年2018年前半は、米国トランプ大統領が中国やEUに対して輸入関税引き上げの保護貿易政策を実施し貿易摩擦が激しくなってきた状況などを取り上げた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・「全体を通して」について、学生の「自分なりの目標達成」は英語学科3.7(昨年3.4)、観光文化学科3.4(3.2)とまずまずであり、「やや達成された」と考える。「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は英語学科3.8(3.4)、観光文化学科3.6(3.7)であり、また、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」は英語学科3.8(3.4)、観光文化学科3.6(3.6)であり、知識理解は「やや達成された」と考える。「的確に判断する力を得ることができた」は英語学科3.8(3.4)、観光文化学科3.5(3.6)であり、同様に思考判断は「やや達成された」。「学びを深めたいと意欲をもつことができた」は、英語学科3.8(3.3)、観光文化学科3.5(3.3)であり、また、「職業選択の参考になった」は英語学科3.5(3.3)、観光文化学科3.3(3.3)であり、この辺りから、意欲関心は「やや達成された」。 ・「全体を通し」に関連するが、成績評価総合点の平均は、英語学科77.71(昨年2017年 70.96)点、観光文化学科76.56(75.29)点であり、この平均点の水準からも、「やや達成された」と言えると考え。なお、両学科合同の授業であったが、上述の通り、観光文化学科の平均成績が今年は英語学科よりも若干下回った(昨年は上回った。一昨年は下回った)。この両学科の平均成績の対比は、上述の「知識」の新たな修得や「理解する視点」、「意欲・関心」において、観光文化学科の方が英語学科を若干下回ったことを反映している模様である。また、「関心のある内容である」ので受講したという学生が、観光文化学科は43.3%と昨年の55.6%からは低下したことも留意しておきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	人文学部と両学科のDPにて、「社会科学の特定の専門分野における基礎的知識と運用能力」、「社会科学の特定の学問領域において、的確な考察および判断」、「国際的視野」「現代社会の諸問題」「社会人としての基礎的な学力」「現代社会の実態を学際的な視点でとらえる能力」等が言及されているが、本科目はこれらのDP実現に資すると考える。この点、および学生の上記到達度自己評価、上記の学生の一定の成績から、内容的には妥当と思料する。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	・国際経済の理論より実際に起きている事象の理解に重きをおき、教材に多くの写真を載せて学生の関心を引きたいと思っているが、一方、初めて経済を学ぶ学生が多いことから、理論・理屈についても十分説明して理解を向上させるようにもっと努める必要があるとは感じる(例えば、インフレの国の通貨は何故安くなるのか等)。「むずかしい」との学生コメントが授業中のアンケートで示され、授業時間に受け取った質問票に丁寧に答えることで対応してきた。授業評価では「説明は理解しやすい」が英語学科3.6 (昨年3.3)、観光文化学科3.3 (3.0)となっており、昨年度並みであったが、若干改善が見られたのは喜ばしい。 ・学生からの意見に「毎回パワーポイントがあつて分かりやすかった」と言ってくれた学生がいる一方で、「レジュメと全く同じ文をひたすら読むような授業だったので少しきつかった」の意見も受け取った。後者の意見に対して、次の通り言いたい。私が自分で作ったテキスト(レジュメ)をしっかり理解してもらおうと、テキスト(レジュメ)を画面で示しつつ説明したもので、長い文章をいつも読んでいたことはないと思う(私は、時間節約のため、板書はしない方針である)。長い文章の中でも、重要部分には下線を引き、ここはしっかり理解してほしいと、ポイントは示したつもりである。また、キーワードは穴埋めで学生に手を動かしてもらったり、マーカーで色づけするなど、意識を高めつつ理解してもらおうと努めた。別の形として、テキスト(レジュメ)ではなく、パワーポイントの図示を中心にした説明が考えられるが、それは舌足らずになる懸念があるので、図示とともに説明文を入れている今の形を取っている。ご理解いただきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	・総括的には、観光文化学科学生からの評価は昨年度並みであり、特に上向いたことはない、と認識している。来年度本科目を担当しないが、この授業で学んだこと、少なくともキーワードは、時事ニュースなどで出てきた場合、授業で扱っていたなと思い起こしてほしい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	高橋 幸夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
消費者行動論	2・3・4	前期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	「消費者行動論」は「マーケティング入門」と対をなす科目である。そのためシラバスでも同時履修を推奨している。この科目では企業マーケティングの基本である「消費者を知ること」を主眼としているが、消費者行動論を理解するためには、関連のテクニカルタームの理解が必須である。そのテクニカルタームの解説と理解促進に重点をおいている。授業テキストは特に用いていない。実際の企業経営の中心課題であることは周知の事実であるが、本学科のカリキュラムには「企業とはなにか」「企業経営とは何か」「経営入門」等のマーケティング以前の基本カリキュラムが設置されていない(2018年新カリキュラム実施により経営学入門科目が導入されたのでこの記述は現2年生以上の学生に適用する)。その為、学生の興味喚起のために観光・旅行系などの企業経営、自治体など団体組織おけるマーケティングと消費者行動理解を促している。また、消費者行動に興味・理解を促進するため関連するコマーシャル、ビジュアル等をPPTに多用している。学習準備性については、上述のように企業組織・経営の基礎理論を学習したことのない学生にマーケティング・消費者行動への興味・理解をさせるために新聞・テレビなどの経済経営記事に慣れ親しむ事を学習準備として示している。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	毎年受講生レベルが違い、毎週軌道修正しながら授業進行しているが、内容的に多少の難しさはあったと思われる。昨年度より授業開始時に前回授業の振り返りを行い、理解促進に努めた。改善課題としてはマーケティング入門の関連科目のため、双方の授業内容と進行状況を常に確認する必要がある。アンケートの到達度自己評価、授業の質評価項目についてみると、上記目標状況は「やや達成された」と考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機、学習到達度の自己評価、自由記述の意見より本科目自体の内容的妥当性はあると評価できるが、基本的問題としてマーケティングの基礎知識としての経営学を学んでいないというカリキュラム体系上の欠陥から、厳密な内容妥当性ではない。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

外部講師授業、グループワークなど授業の進め方については学生の興味喚起を目的に導入を考えているが、ディスカッションを取り入れ、コミュニケーション力、表現力等の養成も検討したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

科目目標はやや達成されたと思われるが、学習量が受講生に多くいるため課題、レポートなど工夫したい。

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	友原 嘉彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
欧米観光文化地理Ⅰ	2・3・4	前期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目では欧米の中において特に西欧の観光文化地理について授業を行なった。西欧(あるいはさらにその各国、各都市の)観光文化、社会、地理などの形成と特徴について詳細に論じた。西欧は学生達に渡航先として人気のバリやローマ、ロンドン、ウィーンなどを含んでおり、興味関心を喚起するよう心掛けた。授業にあたっては以下の工夫をした。 ① 欧については日本のメディアにもよく取り上げられはするが、(特に世界史を学んでこなかった学生にとっては)深い部分についてはあまり馴染みがないだろうと考え、授業の前提として歴史や政治経済、社会についての概説も行なった。 ② 2回に渡って中間レポートを課した。内容は西欧における観光事情についてであり、観光ルートの提案を示してもらうなど調べるだけでなく、考えてもらう作業も行なってもらった。レポート点については全員60から75点であった(全8名。満点100)。 ③ 期末試験は論述形式のものとし(持ち込み可)、一定の時間内で論理的・説得性のある文章を書いてもらうことを求めた。期末試験の点数については、1名が60点、4名が70点、2名が80点であった(出席状況により1名定期試験不適格者が出たため7名。満点100)。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない		どちらともいえない		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講者は8名であり、1名が3年生のほかは全員2年生であった。このように、大学4年間の中間的な学年で、学生生活に慣れてきた中、1限の授業であり、授業内容も、調べ、考える作業を重視したため、倦怠感が出された感もあった。授業評価アンケート(回答者5名。以下同)によると、図書館の図書・雑誌を利用したのは0名、CiNiiなど学術データベースの使用も同じく0名であった。インターネットを使用し、(一般的なサイトにより)検索などを行なった者も僅か1名にとどまった。この数値が物語っているように、本来は主体的に調べることを促した授業であったが、受講者達に響いていなかったことが確認された。これに沿って成績もあまり芳しいものとはならなかったため、知的好奇心の喚起は今後の課題である。 出席状況については、2名が皆勤であったが、次点は2回欠席(1名)、さらに3回欠席(1名)と続き、5回欠席した者も1名いた。また、6回の欠席で定期試験受験不適格となってしまった学生も1名出た。上述の予習・復習の状況だけでなく、授業への参加も芳しいものとは言えなかった。各課題や学期末試験の出来などから総合的に評価した結果、単位自体は定期試験受験不適格者以外の全7名に付与することができた。一方、内訳は「秀」0名、「優」1名、「良」4名、「可」2名となった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	すでに上記の4で示したように、2年生がメインの受講生達は学生生活への(ネガティブな意味での)慣れや1限という時間帯であったこともあり、総じて学術へ向かう姿勢であったとは言い難い面もあった。その一方、定期試験受験不適格者以外の全7名は必要最低限(以上)の努力はしてくれたことは明記しておく。 授業評価アンケートによると、「受講動機」は「関心のある内容である」が4名で選択率80%、次点で「単位数を確保する」が2名で選択率40%であった。上述の3で触れたように、内容的には関心があったことが確認された。「到達度自己評価」は10項目あるが、すべて3から3.4の間の評価であった(5点満点)。最高である3.4は「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」と「職業倫理や行動規範(守るべきルールなど)について学ぶことができた」の2項目であった。3.0であったのは「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」、「職業選択の参考になった」の3項目であった。中間的な範囲で僅か0.4ポイントの中に10項目すべてが詰め込まれている現状からは「可もなく、不可もなく」的なニュアンスが読み取れる。前述したように学年や時限に関係なく、少しでも知的好奇心を喚起できるよう、たとえば写真を多く使用するなど工夫したい。 なお、授業アンケートの自由記述では「学習量の評価(授業の課題以外に取り組んでいない理由)」について「授業で十分だと思った」と書かれている。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。	授業で取り上げた西欧は相対的に日本人にも馴染みのある地域であり、上述の5のように、実際に受講生達は興味を持って履修登録してくれた。その一方、同じく5などで示したように、時に「中弛み」とも言われることのある中間的な学年であること、また、1限であることなどから、授業中に思わず寝てしまった受講生を見たことも少なくはなかった。内容的には日頃の予習、復習は欠かせないものであり、また、中間レポートを2度行なった中で、もう少し情熱を傾けてくれればとも感じた。授業評価アンケートによると、予習時間は0が最も多く3名で、ほか2名も30分であった。復習時間は0が4名となり、30分も1名となった。ノートイクをした者こそ過半数の3名であったが、授業の課題以外の学習に取り組んだものは0であった。このような状況が受講生の大半について「良」や「可」しか出せなかった理由であろう。教員・学生双方の努力により、より白熱した授業を作っていきたいと考える次第である。
<授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業評価アンケートの「授業の質評価」の結果が物語っている。5項目あるが、すべて四捨五入の3となっている(最高点5)。最高点は3.4で、「期間内に行なうべき学習の範囲や課題は明らかであった」である。最低点は2.8で「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」であった。このようにすべて「普通」の評価しか受けられず、知的好奇心を充足してもらったとは言えない状況であることに課題がある。なるべく意見の出やすい雰囲気作りや視覚的にわかりやすいよう写真等を増やすといった努力をしたい。上述の6で触れたように、1限ということもあり、眠たそうな感じや実際に寝てしまっている者も少なからず目撃した。おしゃべりなどで困惑・中断したことはなく、静謐な環境ではあったが、一方で倦怠的なムードは漂うものであった。1限ということに関係なく、盛り上がる授業にしていきたいと考える。
-----------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	篠原 征子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
中級中国語	2・3・4	前期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は中国語の中級知識を学習するものである。今回の受講動機をみると「関心のある内容である」が100%であり、よいスタートであったと感じた。授業ではちょっとハードな発音練習のあと、中国の文化や風習、考え方、最新事情なども紹介したりして、学習者のモチベーションを高め、さらに関心を引き付けるようにしている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された					
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均は81点であり、標準的なレベルに達し、理想的レベルまであと少しであると言える。 学生による到達度自己評価において、10項目の中央値はすべて5.0であることから、満足できる結果であると言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容の妥当性 本科目は「総合人間科学」に属する選択科目であるが、観光文化学科の「専門教育科目――中国語通訳ガイド演習や観光中国語など」の基礎となる重要な位置にある。この段階で学生により学習習慣を付けさせ、中国語の基礎知識をしっかりと把握させ、分かる、できる、通じるという喜びを感じさせ、中国語大好き人間にさせることが最も重要だと考えて授業を進めた。学生も優秀な成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみた内容の妥当性 「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の項目の中央値は5.0であり、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の2項目の中央値も共に5.0であることからみて、内容的には妥当であったと考える。 ③自由記述の意見 自由記述は「ありがとうございました」、「たのしく、授業できて、いっぱい勉強できました」、「中国語少し話せるようになりました」などがあつた。これらの記述からみて、内容的には妥当であったと考える。 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学習者の学習状況を常に確認し、無理のないように授業を進めていた。 授業の質評価において、5項目の中央値はすべて5.0であることや、学生から「たのしく、 分かりやすかったです」などの感想があったことから、本科目の授業の進め 方は妥当であると思われる。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	「総合人間科学」の一科目として、それから「専門教育科目――中国語通訳ガイド演習及び観光中国語」を受講するに必要な予備知識としての本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できた。 今後は今年のような到達度を維持できるように頑張りたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	金 光子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
観光ハングル	2・3・4	前期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	科目名からして主に観光を目的としたガイド的講義のイメージで受講する傾向がみられた。受講動機にも「関心のある内容である」が90%を超えていた。授業初回に学習状況に関するアンケートを実施し、文字を学びながら文化や観光情報にも興味がある学生が多く、韓国の文化事情などの話題をより多く紹介したり、具体的な事例をあげながら関心を引くよう工夫していった。文法についても課題プリントや宿題などで学習時間を増やし語学力を身に付けてもらった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された					達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	再試対象者は0名であり、全員が標準的レベルに達したと考える。宿題や課題の提出率はほぼ100%であった。学生評価には「だんだん読めるようになってとても楽しかった」「わかりやすく楽しく学ぶことが出来た」との意見があった。また、到達度自己評価においては平均値、中央値4.0以上であったことから教育目標は達成された方だと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本講義は「ツーリズムおよび地域社会に関わる課題解決に向けての専門的スキルを身につけている」という点から評価される授業であるが、語学だけではなく韓国の文化や国事情を学びながら日本と韓国の橋渡しが出来た技量を身につけることが目的の講義であり、上記のカリキュラムマップの位置づけからみて内容的に問題は無いと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進捗は毎回行う小テストや課題の出来具合をしっかりと把握し、つまづいている受講者がいれば個人的に指導にあたったりもした。最終テストでは全員の平均点が高く追試対象者は0であった。一方課題としては授業の回数からしてすべての韓国を切り取ることは出来ず、受講生に韓国へのより深い理解を促すためのテーマ選びに工夫が必要があると考えます。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	当講義においては教育目的達成において、基礎的な語学力や情報分析力、異文化への理解力、二国間における課題解決力等において一定のレベルを受講生が身に付けてくれたと考える。今後の課題としてはこの授業をきっかけに、自ら課題をみつけ、考え取り組んでいけるよう知的好奇心を刺激するような授業にしていきたいと思っている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	浅田 壽男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ツーリズム英語	3	前期	選択	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	英語の運用力を高めるだけでなく、学科の中核を担う科目として、ツーリズム(観光事業や旅行業)にも直結し、その方面の知識や技術を習得することを目指す科目であるので、英語圏の主要国の風土、文化、社会、歴史の全般にわたり、主に英国を対象に、その概要を学べるように配慮し、準備を進めました。そのために、日本人が英国各地を訪れる形で、英国の主要な都市と観光地を訪ねながら、英国の文化・習慣・風習を疑似体験させるテキストを選びました。このテキストで学ぶだけでなく、積極的に英国について自ら調べて研究してもらい、能動的に授業に取り組んでもらうために、受講生一人一人に英国に関する個別テーマを与えて、研究発表をし、発表後には発表内容のレポートを提出してもらって、大きな効果がありました。定期的な復習してもらうことを狙って、復習テストも実施しました。教室でカバーできなかった項目や練習問題については、すべてプリントにして配布しましたが、受講生の自主学習にも役立ててもらえると期待しています。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された			やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	平均点が70点程度になるように出題した学期末試験の素点の平均が60点台後半であったこと、授業中の研究発表の状況と、発表後に提出のレポートの評価がA～Cの3段階評価で、平均「B+」であったこと、授業中に指名した時の発表の評価などを総合して、「やや達成された」と考えます。ただ、受講生の大半(20名中17名)が4年生であり、就職活動その他で忙しい人が多かったのか、残念ながら、一度も休まずに出席した受講生は2名を数えるのみで、ほとんどの受講生が平均2～3回欠席した点は、事情がどうであれ、「授業への参加度」の点では不満が残リ、この点を鑑みて「やや達成された」という評価になりました。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、選択科目ではあるものの、観光文化学科の中核を担う科目であり、英語力の強化とともに、ツーリズム(観光業界、旅行業)に求められる「技能表現力」の養成も不可欠であることから見ても、DP、CP、カリキュラムマップにおける位置づけは妥当であると考えます。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	英国各地への旅行を疑似体験させる形のテキストは、英国の主要都市、観光地のガイド・ブック的な役割も果たしてくれるもので、受講生のニーズにも十分、応えてくれるものであり、内容の理解にしなければならない地図も付いていますが、テキスト本文に登場する場所しか示されていないので、別途、必要な地図を作成して、配布し、授業の補助資料として使用しました。また教師側の一方的な授業にならないように、一人一人に英国に関する小テーマを指定して、研究発表をもらい、発表後に発表内容のレポートを出してもらったことは、適切な授業の進め方であったと考えています。授業内にカバーできなかった箇所は、授業でカバーできた箇所も含めて、テキストの全英文の和訳と、全問題の正解例を作成して、プリントで配布しましたが、受講生の自発的な学習や復習の際に、十分、役立ててもらえたことと考えます。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	上記の項目4で詳細に記しました通り、本授業は全般的に見て「やや達成された」と考えます。言うまでもありませんが、授業は受講生と教師の共同作業の上に成り立つものである以上、どのようにして、熱心に授業に取り組んでもらうのか、という基本自体、その時々を受講生のタイプを見極めて、臨機応変に対応しなければなりません。少なくとも受講生一人一人に個別テーマを与えて研究発表をしてもらうことは、最低限とは言え、間違いなく効果の大きい指導方法であり、今後も授業の進め方に取り入れて行きたいと考えます。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	神崎 明坤

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ツーリズム中国語	3・4	前期	選択	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	専門展開科目にあたるツーリズム中国語は、観光文化学科における教育の骨格となる分野の修得を深める科目である。中国語観光ガイドの力の養成に重点を置く。具体的にはツーリズム中国語の基本的技術を学習した上に、基礎的な理解能力、表現能力、翻訳技能の養成を目指した科目である。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された			達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、90点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、全員は理想的レベルに達していない。学習による授業評価においては、①授業の課題以外に学習していない理由としては、授業で十分と思った。「コミュニケーション力や表現力は高めることができた。」の平均4、0と高かった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについてマップ上の位置づけから見て、本科目は専門展開科目であり、中国語の観光ガイドなどの資格試験に対応する科目である。学習者の総合的な視野と専門分野の理解に応えるから、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均4, 3と、「説明は理解しやすいものであった」の平均4, 6となった。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	専門展開科目にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できたが、表現技術の面では、課題を残した。じっくりと復習する時間が少なかったため、復習課題の提示などで改善を図りたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	劉 明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
アジア観光文化交流論	3・4	前期	選択	いいえ	58

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機をみると「単位数を確保する」27%、「関心のある内容である」19%、「友人が履修している」2%、「先輩に勧められた」1%となっております。もっと学生の関心を引き出し、もっと多くの学生に履修してもらえるように、シラバスの作成や授業の準備に工夫する必要があると思う。 ②最初の授業にシラバス内容の確認や学生との意見交換を行った。 ③演習の7回目に小テスト(レポート作成と発表)を行い、学習状況と学生の意欲・能力を確認するようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は79.4点であり、再試対象は0名であった。全員が目標のレベルに達したと思われる。 目標別に見ると、知識理解に関しては90%、意欲関心に関する問題は87.5%であった。それぞれの目標が達成されたことを示している。 学生による授業評価においては、知識理解、意欲関心の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。 図書館の利用に関しては、2.5%で、インターネットの利用に関しては、5%で、図書館とインターネットの利用については、さらに指導することを考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解、意欲関心に関する達成度が目標のレベルに達していることが示されているし、内容的には妥当であったと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「アジア観光文化交流論」となっており、インバウンド観光を勉強しているので、「観光産業界での就職」をつなぐ要の位置にある。学生も良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、評価が良かったが、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」と思っている学生数が80%であった。次年度でも、引き続き学生が積極的に参加することが出来る機会・環境を作っていきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	「観光産業界での就職」をつなぐ要の位置にある「アジア観光文化交流論」であるから、学生がもっと積極的に参加する機会・環境づくりを図りたい。 また、学生の知識理解、意欲関心を高めるために、授業中に話し合う、発表を行う時間を増やすようにしたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	岩井 朝子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語通訳ガイド演習 I	3・4	前期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	通訳案内士の資格試験がなくなったので、より実践的な授業を心掛けた。外国人観光客に接した時に、ちょっとした話題となるようなトピックを想定して授業のプログラムを作った。また、日本の着物や茶道といった伝統的文化だけでなく、学生が身近に感じられるようなポップカルチャーなどの話題も取り入れ、学生に積極的に意見を発信してもらえるような環境を与えるように工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない			どちらともいえない		どちらともいえない
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	やる気があり、課題にしっかり取り組む学生とあまりそうでない学生がはっきりしていた。特に英語学科と観光学科合同ということもあり、個人で英語力に差があり、一部の学生には授業内容が難しかったと思う。再試対象は0名であったが、特にプレゼンテーションの成績平均値において偏りが見られた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、国家試験合格を目標とした科目であったが、通訳案内士試験に関する法案が新たに可決され、国家試験無しで外国人観光客の案内ができるようになったため、科目自体の妥当性が問われることになった。しかし、資格試験の可否を目標とするのとは別に、外国人観光客と触れ合う機会は確実に増えているので、他国の文化に興味を持って共通語である英語で知識を得ることはこれから必要を増していくと思うので、内容的には妥当であると思う。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	スピーチ、プレゼンテーションの機会を多く設け、学生が発言しやすいような授業の雰囲気を作り、双方向の授業を実現しようと努力した。授業に対する予習復習時間が少ない学生が多い。授業で学んだことを定着させるために復習を促し、学生が発言しやすいような双方向授業の雰囲気を作ることが大切になる。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	プレゼンテーションや発表の機会を多く与えることで、双方向の授業を実現し、学生に日頃から課題意識を持たせる努力が必要になる。また、授業が難しいと感じる学生には個別に対応するフォローアップも必要となる。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	ノリス 志津代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語通訳ガイド演習Ⅲ	4	前期	選択	はい	5

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業初日に、今期全体の概要の説明および2コマが連続する授業形態であるため、シラバスをもとに授業の展開の仕方を具体的に説明した。学生の受講動機については、6割が「関心のある内容」と回答している。九州および学生の出身県の知識を深め、それを観光客に伝える能力を高めるために、まずは母語でまとめ、次に英語で説明できるようにすることが重要であると強調した。クラスでは積極的に英語で発言するように促した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	概ね達成された			概ね達成された		概ね達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	英語で話す機会を多く設けたので、自由記述では「英語がより身近なものとなった」という感想が書かれていた。今期は九州観光に関する長文を英語を(補助メモなし)の完全暗唱を目指し、それを達成することができた。授業への準備では80%の受講者が60分以上の準備を行い、授業に参加した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	カリキュラムマップ上の位置づけは「専門展開科目」である。英語通訳ガイドにおいては、観光に関する知識とともに英語で説明する力が現場では求められるので、それをクラスで求めた。受講生はその要求に応え、英語に対する苦手意識を克服し、積極的に英語の発話に挑戦した。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	2コマ連続のクラスであるため、メリハリのある授業になるように心がけ、九州に関する知識および出身県に関する知識の強化のためのリサーチと発表に焦点を当てる授業と、リスニングと英語の発話を中心に展開する授業の2本立てで行った。ペアワークを積極的に取り入れ、学んだ知識を発表する場を設けたことで、活発な授業展開が行えたように思う。今後もインプットとアウトプットのバランスに留意しながら、授業展開を工夫していきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学習に対する意欲が高く、2コマ連続のクラスであるが、テンポよく進んだ。観光に関する知識と共に、円高円安やGDPなど日本と九州の経済一般常識を学び、その知識を自分の言葉で発表する楽しさを共有しながら、よりよい授業になるよう心がけていきたい。来期は学期末の発表の準備方法をさらに工夫し、より充実した授業になるよう努めたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	高橋 幸夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
広告宣伝論	3・4	前期	選択	いいえ	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	広告宣伝は、企業マーケティングの重要な要素であるが、本学科のカリキュラムには「企業とはなにか」「企業経営とは何か」「経営入門」等のマーケティング以前の基本カリキュラムが設置されていない(2018年新カリキュラム実施により経営学入門科目が導入されたのでこの記述は現2年生以上の学生に適用する)。そのため企業経営におけるマーケティングおよび広告宣伝の役割の理解に重点をおいている。また、広告への興味・理解を促進するため関連するコマーシャル、ビジュアル等をPPTに多用している。学習準備性については、上述のように企業経営を学習したことのない学生にマーケティングへの興味・理解をさせるために新聞広告、CMなどの広告に慣れ親しむ事を学習準備として示している。本科目の特性として、社会、消費者動向変化に対応する最新性が重要であり、企業としての広告活動の実践を学ぶため、学外講師(広告会社)を招聘しての講義、思考・表現能力の向上を目指したテーマを与えたグループワークによる企画・プレゼンテーションをおこなった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	この授業は昨年度開講された科目であり、上記授業準備で述べた通り、体系的なカリキュラム構成による「経営におけるマーケティングの理解が困難なため、あくまで「マーケティングにおける広告とは何か」への興味を促進することが大きな目的であるため、映像、ビジュアルなど多用しているが、アンケート内容にから達成されたと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機、学習到達度の自己評価、自由記述の意見より本科目自体の内容的妥当性はあると評価できるが、基本的問題としてマーケティングの基礎知識としての経営学を学んでいないという、カリキュラム体系上の欠陥から、厳密な内容妥当性ではないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	外部講師授業、グループワークなど授業の進め方については学生の興味喚起を 目的に導入し、問題ないと考えているが、ディスカッションを取り入れ、 コミュニケーション力、表現力等のさらなる養成も検討していく。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	科目目標はやや達成されたと思われるが、学習量が受講生に多くいるため 課題、レポートなど工夫したい。再来年度以降について新カリキュラムで 導入された「経営学入門」履修により企業経営・組織について知識の習得を 踏まえた授業計画・内容としたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	松笠 裕之

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
宿泊産業論	3・4	前期	選択	いいえ	49

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	この授業は、専門科目として配当学年が3・4年生ということもあり、専門的な内容となっている。本講義では、人文科学の歴史、社会学の分野におけるホテルの起源並びに歴史の変遷を中心に学ぶことと、社会科学の経営学の分野におけるホテルマネジメントの2つの分野の多面的な学問領域によって学際的な内容となるように構成されている。また、職業教育の一環としてサービス産業におけるホテル業の実務的な面も講義に取り入れて受講生全員が興味を持つような話題を中心に授業を行っている。毎回の授業では、パワーポイントとレジメを使って、前回の復習に始まり、授業のポイントを各自で記入するようにして記憶を促進するよう工夫している。最後に出席表に本日のポイントの復習点を整理させ、毎回の授業に対するコメント、疑問などを書かせて完結するように工夫している。さらに、期末テストで一夜漬けで覚えることがないように中間テストを実施している。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業への出席状況並びに毎回のリアクションペーパーと中間テスト、最終テストの計2回の筆記試験を基に成績評価を行った。まず、出席率については、全出席(欠席0)が全体の41%で1回又は2回の欠席者を含めると80%の出席率であり、出席率は非常に高く欠席が少ない授業である。次に成績では、(秀)評価43%(前年30%)、(優)評価27%(前年38%)、(良)評価16%(前年13%)、(可)評価10%(前年16%)、(不可)評価4%(前年3%)で(秀)評価と(優)評価で70%と学習効果が高いことが数字で示されている。さらに昨年の成績と比較しても、(秀)評価と(優)評価で68%であったため昨年より成績は良くなっている。また、リアクションペーパーや授業評価アンケートでは、宿泊産業論の授業に興味を持ち、実践的な話に毎回興味が沸いた、またホテルに対する見方が変わったという意見が多かった。さらに授業の内容をホテルでのアルバイトに活用したり、ホテルの仕事に興味を持ち、将来の就職先の候補として考えるようになった学生なども居たため、実践的な部分での成果が確実に出ているものと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	全ての講義で必ずリアクションペーパーを学生に書かせることで学生自身の授業におけるポイントの確認と学生の疑問点並びに傾向を確認できる。次回の授業では、授業のはじめ10分程度必ず復習を行い、リアクションペーパーへのコメントと疑問に答えるように工夫している。人数の関係ですべてのコメントを紹介できないのは残念であるが双方向式の授業として成績面においても成果が出ていると思っている。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	この授業における目標である理論と実務両面の知識獲得については達成できたと思える。実務的な要素が強い講義であるため、視聴覚教材なども使って理解促進を図りたいと考えている。また、リアクションペーパーを使って双方向型の授業をしているが疑問に回答するのが次回ということで時間差があるため、リアルタイムに疑問に答えていけるような工夫を検討していきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	総括的評価としては、高い出席率並びに成績評価がすべてを物語っており、教員として手ごたえを感じている。報告書からは図書館利用が少ないとの報告があるため、今後は図書館の文献を参考にしてレポートを書くような工夫も導入したいと考えている。また、グループで宿泊産業における問題点や地域における宿泊産業の役割などを討論できるような機会を作りさらに深い知識習得に努めていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	高橋 幸夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キャリア・デザイン論	3・4	前期	選択	いいえ	53

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目は北九州市総務局女性活躍推進課との連携で行った。受講生の関心度の高さが示すように間近に迫っている就職活動への準備喚起と何よりも学生自身のキャリアデザインの重要性、「働く意味」、「企業とは何か」を理解する点に重点を置いている。福岡県内特に北九州地域の様々な業界で活躍する外部講師によるリレー講義と担当教員によるキャリアデザイン理論で構成した。外部講師は業界の現状、仕事での経験、就職活動のアドバイス(求められる人材)等の内容構成とした。授業での重点は学科特性と受講生の興味等を勘案しての講師手配である。この科目の性格上学習準備性は特に意識していない。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	アンケートの「到達度自己評価」から「達成された」が妥当と考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	アンケートの受講動機、到達度自己評価(1)(2)から内容的妥当性はあると考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	科目の性格上「授業の進め方」については各講師に一任しているが問題は無いと思われる。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学科特性と受講生の興味という点での講師選択は一定の評価はされていると思われる。今後の課題として、インターンシップとの関連性（インターンシップ先企業への依頼等）があげられるため、同時履修が望ましい等シラバス表記の検討も必要である。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	須藤 秀夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
インターンシップ	3・4	前期	選択	いいえ	51

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	・大切にしていること、授業でねらいとしていることは、次のA)～C)の3点である。A) 学生を送り出すに当たって、研修・実習先で学生が恥ずかしくない対応ができるように指導すること。そのために、①出勤時、退社時など、折に触れてきちんと挨拶すること、②学ぼうとする姿勢を示すこと、③(時間が空いたときなどでも)役に立とうとする姿勢を示すこと、の3点を授業で毎回強調した。B)社会人が仕事などで使う敬語(クッション言葉を含む)への意識と常識を高めるように指導すること。C)(教員の授業外の対応となるが)、50名の履修学生が希望する研修先と研修日程がしっかり決まるようにすること。そのために学生と研修先(31社)との間の調整を行った(うち5名については就職課のご協力を頂いた)。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・「全体を通して」について、学生の「自分なりの目標達成」は3.8とますますであり、「やや達成された」と考える。但し、授業評価実施の時点は、インターンシップ先に研修・実習に行く前なので、やや意味が薄れる感がある。一方、研修・実習を終えて学生たちが提出してきた報告書を反映しての成績評価総合点の平均は83.6点(50名)であり、やはり「やや達成された」と言える。達成されたいない部分は、全ての学生が研修・実習によって将来の進路に対する意識を高めたとはいえないことから来る。 ・「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は3.9であり、また、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」は3.8であり、「知識理解」は「やや達成された」と考える。「態度」については、「職業倫理や行動規範(守るべきルールなど)」について学ぶことができたが3.9なので、「やや達成できた」と考える。なお、「意欲関心」は本科目のDPに対応項目がないが、「学びを深めたいと意欲をもつことができた」は3.8であり、また、「関心のある内容である」ので履修した学生が89.5%に上っており、自分の進路を考えようとして積極的に履修しようとした学生の姿勢が窺えて、好ましい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	観光文化学科のDPに、DP1「社会人としての基礎的な学力を修得している」「ツーリズムの領域について幅広い理解と知識を身につけている」「ビジネスの領域について幅広い理解と知識を身につけている」、DP2「現代社会の実態を学際的な視点でとらえる能力、問題解決に必要な思考力、判断力を修得している」、DP4「職業としての礼儀作法やマナーを身につけ、ホスピタリティの心と豊かな人間性を持っている」とあるが、職業の現場で多くの社会人と接し、進路や自分の特性などについて気づきを得る本科目は、これらのDP実現に資すると思われる。この点、および学生の上記到達度自己評価、上記の学生の一定の成績から、内容的には妥当と史料する。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	・上記3項の大切にしている3点(A)～C))を実行することが概ねできたと思っている。但し、B)の敬語については、4～7月の授業では学生の意識はまださほど高くな く、夏季の研修・実習を終えて、敬語の大切さを認識した学生が少なからずいた。それも仕方ない事かと思う。 ・1名の学生から授業評価にて次の厳しい意見を受け取った。「授業の要領が悪 いと感じた。インターンシップ先の事を知られたくない人もいるだろうに、スクリーンで1人ずつ確認するのは如何なものか…。ムダな時間も多く、言っていることにま まりがない。スクリーンが非常に見づらい。改善して頂きたい。」 わざわざ率直に書いてくれたことには感謝するが、どうして こういう意見が出て来るのか、理解できない。従って、「なるほど、そうだね」と改善につなげようとは私は思えない。以下、コメントしたい。 「インターンシップ先の事を知られたくない人」云々とあ るが、どういう場合に知られたくないのだろうか。本番の就職先であれば、知られたくない場合もあると承知している。だから、取扱には注意する。しかし、「修行」に 行って、自分を高める、気づきを得る場であるインターンシップ先をなぜ隠す必要があるのか。学生にとって希望しないインターンシップ先の場合もあろうが、もしかし てA社での研修は「恥」と、あるいは、B社よりC社は「下」と考えることもあるのだろうか。もしそうだとすると、好ましい事ではない。全員に研修先を示すのは、第一に は、以前、他の学生が行く研修先を知られたい希望があり、以前から表示していることだから、まあ、表示について何一人も受けもてないが過去の同僚のインターンシッ
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	・総括的には、事後の学生からの報告書を見る限り、概ね実りある研修・実習を経験してくれたと評価している。これを足場にして、就職活動に向かっていってほし い。課題は、もしかすると、研修に行く予定の先のことをもっと調べさせる課題などを与えることかもしれないが、この科目は教員への負担が普通の科目の3～4 倍大きいので、難しいところではある。
-----------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	神崎 明坤

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習ⅠA	2	前期	必修	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	1年後期までで習得した「読む、纏める、書く、発表する」能力を発展させるために、その「社会人基礎力」の内、本学学生が比較的苦手とされる実行力、課題発見力、発信力等の演習を通じて身に付けさせるための授業である。学習ゲーム「記者会見」「論文文章の書き方」「ブレインストーミング」「ディベート」「FWと統計処理の仕方」などの豊富な課題を提供し、実践してもらった。例えば、新聞記事の課題①記事タイトル、②内容説明、③問題意識、④講評(自分の考え、意見を書き、発表する)の演習をしていた、効果が高かった。学習ゲームを取り入れ、学生が議論や問題解決の手法を習得し、学習状況を確認するようにした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は90点であり、再試対象は0名であった。全員が理想的レベル(90)に達した。学生による授業評価においては、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が4.0となった。「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」の平均が4.0となったと高い評価ができたし、「授業中に自分の意見を纏める、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」ことに関しては、平均が5.0と高かった。学生から「人前で話す」と言う前提条件のもとで授業が進められたので、分かりやすく伝える力というものが身についた気がしますという評価されていた。また思考判断では、与えられた課題を解決する際に知識をどのように応用するか、また多様な方法で問題点や課題を獲得し、整理してもらった力をどう養っていくかを検討する。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置付から見ての内容的妥当性 本科目は「演習・研究科目」であるが、「専門基礎科目」「専門応用科目」をつなぐ要の位置にあり、必修である。学生が様々な課題に応えるように工夫し、学生も一定の成績や効果を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標から見ての内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成が比較的高かった。領域の成績からも内容的には妥当であったと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が4.2と高かった。「口頭、文章等、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均が4.2と高かったが、「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.8しか留まらなかった。次年度には説明配慮に工夫していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	専門応用科目である本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については、概ね達成できたが、思考判断の面では課題を残した。 以上から、毎回の狙いを具体的に示すこと、可能な限り考える時間を取ることや、課題復習を意識的に提示することなどで改善を図りたい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	友原 嘉彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習ⅠA	2	前期	必修	はい	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は2年次配当の必修科目であり、2年生を中心とした履修者をもう一人の教員と二分し(計2クラス)、当方はそのうちの1クラスを担当した。なお、本科目のシラバスは2クラス同一のものである。内容は、観光文化学科における学生の専門的研究の入口にあたることを考慮し、それぞれの教員が選定した教科書を基に、専門性の基礎を築くものとした。当方のクラスでは担当者自身が編著者である『女性とツーリズム』(古今書院)をテキストとし、主要な部分について輪読を行なった。授業にあたって工夫した点は以下の通りである。 ①「女性」と「ツーリズム」について多様な研究課題、研究目的、研究方法に触れることで、来たるべき卒業論文の執筆について、おそらく、意義のある研究を行なえるよう配慮した。 ②演習科目であるため、期末試験は行なわなかったが、3回に渡ってレポートを課させてもらった。内容はテキスト同様に主として女性と観光についてであり、調べたものを(参考文献を明示し)まとめるだけでなく、そこから考えられることを盛り込んでもらう形とした。大学生として、可能な限り丁寧に調べ、考える作業を行なってもらった。レポート点については50から100点まで幅が生じた(欠席過多による成績付与対象外学生を除く全28名。満点100)。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講者は32名であったが、上述のように、欠席過多による試験放棄により、28名が成績付けをする該当者となった。2年生配当科目であり、大学生活にも慣れてきた感もあり、全体的にそつなくこなしてくれたと考える。開講時間帯は2限であったことも、欠席や遅刻を抑える働きをしたと取れる。授業内容は、テキストを基に、考え、様々な意見を出してもらう形とした。受講生は苦労もしたかもしれないが、よく理解してくれ、当該28名全員に単位を付与することができた。授業評価アンケート(回答者22名。以下同)によると、図書館の図書・雑誌を利用したのは3名、CiNiiなど学術データベースの使用も3名であった。インターネットを使用し、(一般的なサイトにより)検索などを行なった者は7名であった。この数値が物語っているように、本来は主体的に調べることを促した授業であったが、受講者達にはまだまだ響いていたとは言えないことは残念であり、今後とも継続的に促す必要があると考える。 また、出席状況については、2名が皆勤、6名が1度の欠席、1名が1度の欠席と1度の遅刻であり、全体からすると必ずしも芳しいとは言えないが、及第的ではあった。図書館の利用に比べれば授業参加度は高いと考えられる。各課題や学期末試験の出来などから総合的に評価した結果、全28名に付与することができた。内訳は「秀」4名、「優」4名、「良」10名、「可」10名である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	すでに上記の4で示したように、受講生達は大学生活にも慣れてきた中、そつなくやってくれた。レポートの内容が成績の中で大きなウェイトを占めたが、「秀」や「優」を修めた8名はオリジナリティーもあり、高く評価した。「良」や「可」の者も悪くはなく、しっかりとした対応をしてくれたため、成績付与に繋がった。 授業評価アンケートによると、「受講動機」は「必修科目である」が96%(四捨五入。以下同)と最も高く、次は「資格取得に必要である」の5%であった。「到達度自己評価」は「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」や「職業倫理や行動規範(守るべきルールなど)について学ぶことができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」、「職業選択の参考になった」など10項目あるが、すべて四捨五入の3であり、すべて中間評価である「まあまあそうだと思う」の前後だと確認された(5点満点)。中間的な範囲で僅か0.4ポイントの中に10項目すべてが詰め込まれている現状からは「可もなく、不可もなく」的なニュアンスが読み取れる。前述したように専門の科目として少しでも知的好奇心を喚起できるよう、メイン内容(素材)はもとより、例え話などまで含めて今後とも工夫したい。 なお、授業アンケートの自由記述では「学習量の評価(授業の課題以外に取り組んでいない理由)」について「必要なかった」とあった。必要ないなどとは一言も言っておらず、むしろ当然必要性について説いたのだが、残念ながらあまり伝わっていないと言える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業で取り上げた内容は観光学における専門性の入口となる知識についてであるが、すでに触れたようにそつなく取り組んでくれた。これはしかし、もっと取り組める余地を残している。単位修得だけを目標とせず、卒論、もっと大きく言うと人生を考えて取り組んでもらえるよう努力しなければならない。内容的には日頃の予習、復習は欠かせないものであり、また、レポートを3度課した中で、最低限の対応に終始してしまった学生にしても、もう少し情熱を傾けてくれるよう陰に陽に促していきたい。 評価アンケートによると、予習時間は0が最も多く12名であったが、30分は8名、1時間～1時間半は3名、2時間～2時間半も2名いた。一方、復習時間は0が16名、30分は7名、1時間～1時間半は2名と、予習時間よりは減少傾向が見られた。復習にも時間を費やしてもらえよう、できることを再考したい。ノートテイクは、していない者が15名、配布資料に書き込んだ者は10名であった。授業の課題以外の学習に取り組んだ者は2名、取り組んでいない者は19名であり、授業を活かして、ほかの課題にもチャレンジしてもらえよう意識したい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業評価アンケートの「授業の質評価」の結果が物語っている。5項目あるが、すべて四捨五入の3となっている(最高点5)。最高点は「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」と「期間内に行なうべき学習の範囲や課題は明らかであった」の3.4であった。最低点は2.8で「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」と「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」であった。このようにすべて「普通」の評価しか受けられず、受講生の誰にも知的好奇心を充足してもらったとは言えない状況であることに課題がある。なるべく意見のしやすい雰囲気作りや、仮に授業中にそれが言えない学生であっても文書などを通じてやり取りするなどといった努力をしたい。観光学を専門にする意義や観光学に取り組む上でのやりがいについて広く伝えていくことができるよう、今後とも一層精進して改善していきたい考えである。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	東 彩子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教学(旧約聖書)	1	前期	必修	はい	66

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講義は、本学の建学の精神である「感恩奉仕」の土台となる聖書理解が目的である。前期の授業では、旧約聖書の基礎を体験的に習得できるよう、聖書を自ら開き声に出して輪読すること、紙芝居や絵本の読み聞かせ、DVD鑑賞、ディスカッションなどを取り入れた。また、毎週のチャペルの参加や、ミッションデーのレポート、ミッションデー後の教会訪問などを評価に取り入れ、授業外でもキリスト教に触れる体験の機会を促した。 毎回の授業の最後に記入するポートフォリオにおいて、その日の学びの確認を行っている他、チャペルについてもチャペルポートフォリオを作成し、積極的なチャペル参加とメッセージを聞く姿勢を促した。 今後は、さらに建学の精神の土台を日常的に習得していくため、予習・復習の課題を具体的に示していく工夫を行う予定である。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	「授業評価アンケートの結果より、知識理解に関しては3.9ポイントであった。事象を理解する視点や考え方取得は3.7ポイント、他の到達度自己評価も概ね平均3.6であった。トータルの成績の平均値は約75%以上、チャペルの出席率約80%以上、教会訪問の出席率約85%以上とチャペルポートフォリオや教会訪問の感想などから、「感恩奉仕」の価値観を学び、聖書の世界観を知り、キリスト教の源泉に触れるという、教育目標はやや達成されたと言える。 キリスト教学(旧約聖書)はキリスト教の導入なので、今後、キリスト教学(新約聖書)の中で、前期で学んだ知識をもとに、発展させていくような展開が必要とされる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は本学の要となるキリスト教を学ぶ「必修」科目である。しかし、初めから興味を持って受講する学生はわずかであるため、キリスト教に全く興味のない学生も受講しているため、動機付けに工夫が必要であるが、総合的に全体として一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみた内容的妥当性 「感恩奉仕」の価値観を学び、聖書の視点を知り、キリスト教の源泉に触れるという、行動目標に沿い、学問としての旧約聖書の講義とディスカッションなどのアクティブラーニングの学びの他、チャペル出席、教会出席、等を評価に組み入れ、授業内で学ぶ事の出来ないキリスト教の源泉に触れるなど、内容的には妥当であったと考える。 自由記述には、「紙芝居などわかりやすくする工夫がありよかった」との回答があり、引き続き慣れない聖書の学びへの導入として、多様な教材に触れながら多角的に捉える視点を大切にしたい。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「チャペルポートフォリオ」を導入して、チャペルと本講義とのリンクを行なった。100%の提出があり、学生のチャペル参加の意欲など、全体像をつかむことが出来た。 本講義は、興味のない学生にも興味をもってもらうことが重要である。授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.8ポイントであったが、引き続き、アクティブラーニングの手法を工夫しつつ、学生たちが自ら聖書を開いて、日常生活に応用できるような仕組みを作りたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	必修科目の位置づけであり、本学の要となる「感恩奉仕」の土台を学ぶ科目であるため、学期始めにキリスト教に関心や興味のない学生たちにも主体的に学習してもらうための工夫が必要である。受け身的に知識を得るだけではなく、学生が興味を抱いたテーマについて取り上げてディスカッションを行うことや、絵本・紙芝居の読み聞かせを学生自らが実践することなどを入れ、授業を造り上げる一員としての自覚を養うように促している。 授業の最後に記入して振り返りを行うポートフォリオに加え、チャペル出席を促す「チャペルポートフォリオ」を導入し、学生のチャペルへの積極的姿勢を伺う材料とした。これによって、前期のチャペルでの学びの全体像が見えるようになった。今後も、さらなるアクティブラーニングを検討し、キリスト教学の学びを多角的に深められるような指導をしていきたいと考えている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教と西南女学院のあゆみ	1	前期	必修	はい	66

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 学生の授業評価アンケート(学科全体56名)を見ると、受講動機としては「必須科目である」ことが100%であって、他の動機は「単位数確保」が7.1%であり、「友人が履修」が1.8%であった。自校学に初めて接する状態であったことから、授業は受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第1にキリスト教と「感恩奉仕」を建学の精神とする西南女学院の歩みとの関係を明確にし、自校学の意義を明らかにし、西南女学院の学生としての「自己理解」と「人間性」に関わる科目であることを説明する。第2に、評価基準を明示する。授業の質評価を見ると、＜評価基準は明らかであった＞の項目で肯定的回答は「かなり、わりに、まあまあ」の順に「14, 17, 20」で86.44%であり、否定的回答は「少しそうでない、全くそうでない」の順に「8, 0」で13.56%であった。② 「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、肯定的回答は「7, 9, 26」で71.19%であり、学生の関心ある質問に適切な答を提供できるように、授業毎に、オムニバス方式でテーマに相応しい講師を招き、授業への参加意識を高める工夫の一つとした。③ 総合人間科学の科目であり、自校学であることから、西南女学院の歩みを肌で感じることができるよう、創設者等の先達者の学校墓地(西南の森)に自主的に行くように工夫した。④ レポート課題で評価をすることとし、受講者が自ら関連するテーマを選び自分の知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	① 成績を見ると、平均値は91.60点であり、分布的には、90点以上が78.46%、89～80点が7.69%で、理想的レベル(概ね80点以上)に達した受講者は86.15%であり、79～70点が3.08%、69～60点が01.54%で、標準レベル(概ね60点以上)のそれは4.62%で、未達者は6人で9.23%であった。成績で見る限り、知識理解はほぼ目標に達した。② 学生の達成自己評価を見ると、＜知識＞＜理解＞に関しそれぞれ肯定的回答は「かなり、わりに、まあまあ」の順(以下同)に「11, 20, 21」と「10, 16, 25」でそれぞれ88.14%と86.44%で、否定的回答は「少し、全く」が「5, 2」で11.86%と「7, 1」で13.56%であった。③ 専門分野で＜検討する力＞＜判断する力＞に関しては、肯定的回答は「8, 14, 27」と「9, 14, 26」でいずれも83.05%であったのに対し、否定的回答はいずれも「8, 2」で16.95%であった。＜意欲＞に関し肯定的回答は「7, 14, 28」で83.05%であり、否定的回答は「7, 2」で16.95%あり、無回答が1人、1.69%であった。④ さらに専門分野の＜技術＞と＜コミュニケーション、表現力＞の習得に関しては、肯定的回答は「9, 11, 30」と「8, 12, 27」でそれぞれ84.75%と79.66%であったのに対し、否定的回答は「7, 2」と「10, 2」でそれぞれ15.25%と20.34%であった。⑤ 学生の規範学習に関する達成度の自己評価を見ると、肯定的回答が「9, 15, 27」で86.44%であったのに対して否定的回答は「7, 1」で13.56%であった。⑥ ＜職業選択の参考＞では、肯定的回答は「8, 14, 24」で77.97%であったのに対し、否定的回答は「10, 3」で22.03%であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本となる総合的視点と人間性とコミュニケーション能力を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、すべてにおいて2桁であった。すなわち、まず、＜知識＞＜理解＞ではそれぞれ11%台と13%台であり、さらに、専門分野の学習においては＜検討する力＞と＜判断する力＞＜意欲＞では16%台であり、続く、＜技術＞と＜コミュニケーション、表現力＞は15%台と20%台であった。＜倫理・規範＞に関しては13%台であった。② DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価では、社会の一員としての豊かな人間性と社会性を支える広い総合的視点たる教養を身につけるための＜知識＞＜理解＞に関しての否定的回答は11%台と13%台であり、それに対して、専門分野の課題解決のための論理的思考・判断にかかる＜検討する力＞＜判断する力＞及び専門分野の地域社会の課題や協働的協力の＜意欲＞は16.95%であり、また、自己研鑽し社会貢献への姿勢である＜倫理・規範＞の分野では13%台であった。しかし、＜技術＞の習得という専門分野と、適切な関係を形成する＜コミュニケーション、表現力＞に関する否定的回答はそれぞれ15%台と20%台であった。③ 以上から、CPとDPの位置づけから見ると、肯定的回答は、専門分野を含め70%以上であり、すべてにおいて否定的回答は30%未満であり、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけに関して、授業内容は妥当であったと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	① 学生からの担当教員へ要望としては、レポートの課題が多いので減らしてほしいという声があった。また、レポートの字数も最初から明確にして欲しいという声もあった。検討し、適切に対応したい。② 学習量の評価を見ると、＜1回30分以上の予・復習＞6回を予習が23.73%、復習が38.98%実施し、1回以上で6回未満の学生もそれぞれ38.98%と33.90%で、予・復習のどちらか30分1回以上の学生は67.80%であった。③ 授業の質評価を見ると、＜学習の範囲や課題は明らかであった＞という項目で、肯定的回答は「かなり、わりに、まあまあ」(以下同じ)の順に「14, 20, 17」で86.44%で、否定的回答は「少しそうでない、全くそうでない」の順に「7, 1」で13.56%であった。＜理解しやすい＞という項目では、「8, 17, 21」で77.07%であった。否定的回答は「10, 3」で22.03%であった。＜学生の質問への答を得る機会＞では、肯定的回答は「7, 9, 26」で71.19%であり、否定的回答は「15, 2」で28.81%であった。＜参加の機会＞では肯定的回答が「5, 10, 26」と69.49%で、否定的回答が「4, 14」で30.51%であった。④ 今後のことであるが、学生の授業評価によると、肯定的回答が知識・理解につき80%以上であったが、質問と答えの機会もかろうじて70%台を維持したが、しかし、参加の機会70%台を割った。これを参考に、1) 今後も理解向上のために、レジメ等による説明の工夫、2) 理解の共有化を図る工夫、3) 2学科の1年生全員の授業でどのように学生の質問と参加の機会を作れるかを模索し工夫する。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	① 授業準備として、今後も、学習動機向上のために、グローバル化の時代をむかえることを念頭に、西南女学院大学の学生であること、その同窓生になることの意義を、それぞれの専門職との関りをもたせながら建学の精神「感恩奉仕」を要とする授業となるように工夫する。今後も、評価基準を明確にし、予習・復習の具体的方法を繰り返し喚起することが必要である。② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。特に、この科目はキリスト教の価値観に基づく西南女学院大学の学生という集団的アイデンティティを形成する実学であって、この科目で習得する知識理解を応用乃至適用する学問が、まさに学生が学ぼうとしている専門分野である。その専門分野での＜的確に判断する力＞及び＜その学びを深めたいと意欲をもつ＞ことの基盤となるものであるという重要な意義を踏まえ、すでに記載した改善策に取り組む工夫をする。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	八尋 春海

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅠ	1	前期	必修	はい	65

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講学生が単に学習をするだけでなく、この機会にアドバイザーやアドバイザーグループ内の他の学生と親しくなり、大学生活において直面する問題を乗り越えるネットワークを構築することを目標とした。そのために、ディベートを取り入れた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	どちらともいえない		達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の自由記述を読めると、ディベートの取り組みについての評価は高いものの、授業の大半を占めていたテキストについてはそれほど評価は高くないようである。テキストを通して学ぶ、基礎知識が身につけていない可能性があると思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	入学して間もない学生が戸惑いを持っている中で、この科目は授業についての道筋になっているとともに、人間関係の構築にも役立っており、欠かせない科目である。学生の評価にもそれが出ている。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学科会議でこの科目についての情報交換を行ったところ、1コマの授業時間で足りない内容があったり、逆に時間が余る内容もあったりというように、多くの教員(担当者)が時間配分で困っていた。このことは学生の学習状況にも影響を与えることであり、学科会議で再検討をすることにした。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	この科目について学科内で意見交換を行ったところ、テキストの内容が達成状況にマイナスに働いているという認識でおおむね一致した。そのため、次年度はテキストを変更するという前提で科目の内容を学科会議で検討することにした。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
運動と健康	1	前期	必修	はい	65

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	健康、運動、栄養、生活習慣、人体生理学、運動生理学、運動関連代謝系の内容を把握させることに重点を置いた。 受講の動機は「関心があって受講した」と答えた者が6.6%(昨年30%)で、その他は「単位数の確保」と答えた者が23%(昨年70%)、必須科目となったこと、文系学科において健康等に関心が少ないことが考えられる。 健康に情報は近年メディアを通して日常的にかつ断片的に触れている。トピックス、ダイエット、体作りを取り上げながら、自己を含め人の健康管理をする上で必要な知識を理解できるように授業計画を構成した。 授業計画では予習復習を毎時間小レポートを作成させ、前もって配った資料で予習をして授業に参加するようになり、授業で内容を記憶し、理解している応答が出来るようになっていた。予習をしなかった者が9.5%(63人中6名)、復習をしなかった者が4.7%(3名)と素晴らしい結果となった。各時間の準備性は高まった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は82点(SD5.1)であり、再試対象は1名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは44名と、問題の難易度から言って高いとは言えなかった。 「目標達成できた」と答えた学生総数は62人(63人中)という高値となり、学生の達成感と満足感が良いと考える。目標別に見ると、「知識が獲得できたと思う」は63人、自己評価ではまんべんなく達成感を持たすことができた。 観光文化学科の学生に取り、新鮮な知識として受け取られていると考える。今後、関心と成果のギャップを埋めるよう、授業目標の達成度の程度を高めるような方法を取り入れたい。また、教科書以外の資料をインターネットを利用し、配布やアンケートの回収を行い工夫のポイントを拡大したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「総合人間科学科目」であるが、自己の健康管理及び学生生活においても必須の基本的知識である。また、生活信念、健康志向、美容的自己管理においても大きく関わりのある科目内容である。学生が一定の成績を収めていたことから、内容的には文系の学生にも妥当な内容であったと考える。 ②DP, 行動目標からみた内容的妥当性 成績評価から、方法的妥当性は十分あったと思われる。 ③受講動機で内容に関心がある学生が6.6%で、単位獲得目的の学生が23%である。「受講動機」が曖昧な学生が多かったが、「学習到達度の自己評価」は98%が達成できたと考えており、観光文化科の学生に適した内容であったと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、予習を全くしなかった者が6名(63名中)、復習をしなかった者が3名と非常に少なかった。 シラバスを参考にしなかった者が11名(63名中)、授業計画を立てなかった者26名、図書館、データベース、インターネットの無利用者は13名と、予習・復習の時間が 想定より少なかったことは反省点である。次年度に向けて、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、授業の要点を事前に提示し、その内容を検討して授業 に参加するよう促したい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	健康管理、健康づくりの基礎的知識の形成は概ね達成できた。授業過程を振り返ってみたとき、資料の提示や予習を考えた配布物などで改善を図りたい。以上か ら、毎回のねらいを具体的に示すこと、可能な限り単元毎のまとめの時間をとるか、復習課題を意識的に提示するようにすることをくわえていきたい。配布物に対す る学生の意見を取り入れ、来年度に改善を行いたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
チームスポーツ	1	前期	選択	はい	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講者は、学期の始講と最終講に、体力測定および体組成(体脂肪量等)の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係、運動効果の把握が体感できるように務めた。 ②3回の講義時間を用いて、「筋力トレーニングの方法、トレーニング機器の使い方」、「心拍数を基準とした持久性トレーニングの方法」、「ストレッチ体操の実際、ウォーミングアップとクーリングダウン」について講習を行い、授業外に、また将来にわたり自ら運動処方できるよう誘導した。 ③各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターを装着させ、自己の運動量を把握させ、運動意欲を喚起した。 ④1および3について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。 ⑤健康科学実習Ⅰでは、入学直後であることも考慮し、チームのメンバーが固定的にならないように、種目が変わる毎にメンバーの入れ替えを行い、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとることができるよう工夫した。チームミーティングを試合前後に行わせ、所属チームの勝利のための戦略立案と実行、チームの中の個人の行動のポジティブなあり方、組織の中の個人の役割を意識した行動の実行を促した。また、試合後には必ず良かった点や悪かった点、次の試合に向けての改善点(課題)などをチームで話し合わせ、記録用紙にまとめさせることによってチームで活動することの意義を考えさせた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は85点(SD9.6)であり、再試対象はいなかった。ほぼ平均点は標準的レベルに達し、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものが15名(17名中)と予想以上に多かった。目標達成できたと答えた総数は18人(18人中)で高値を示した。 目標別に見ると、「知識が獲得できたと思う」は100%、「事象理解の視点を得た」と思う者は100%、「課題検討力」を得たと答えた者100%、「判断力を得た」100%、「学習意欲が得られた」100%、「必要技能を得た」100%、「表現力の向上」100%、「倫理規範獲得」100%、「職業選択の参考」100%と高い自己評価を持たすことができた。 今後さらに、欠席する者少なく全員が積極的に受講していた。今後、関心の数字を高めるような方法を考えたい。また、教科書以外の資料をインターネットを利用し、配布やアンケートの回収を行い工夫のポイントを拡大したい。目標別に見ると、知識理解に関しては100%、思考判断に関する問題は100%の者が達成したと自己評価している。 意欲関心をより高めるために、種目やその歴史背景なども説明して、もっと深みを増していくことも次年度にむけて検討したい					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科目」であるが、必須科目に位置付けられ、初年度教育における友達づくりやストレス解放、健康づくりに最適である。また、運動の原理原則を実体験し確認する場として有用である。学生は積極的であり一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高く、カロリーカウンター装着による目標運動量の達成意欲、試合数と勝利数の記載、体力体型の縦断測定比較考察は方法的に成功しており、妥当性は高い。 ③受講動機で内容に関心がある学生が41.2%で、単位獲得目的の学生が88.2%である。「学習到達度の自己評価」は100%が達成できたと考えており、栄養科の学生に妥当な内容であったと考える。 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	試合毎に、試合の内容の反省、チーム員の役割の適切さ、勝つための役割などについて短時間で話し合い、チームとして記録用紙にまとめた。その繰り返しは積極的な参加態度、リーダーシップを産み出し、集団の中の自分の役割を意識するよう促した。更に状況によっての言葉かけのタイミングを検討したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持てるような動機付けができるようにさらに改善したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	八尋 春海

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
人文学入門	1	前期	必修	はい	67

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	総合人間科学の科目で、学部共通の科目で、初めて開講される科目で、リレー講義式の科目という極めて特殊な科目であるため、計画をすることが難しい科目であった。科目名とは少し視点は異なるが、「人文学」ではなく「人文学部」の入門ということで内容を検討した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった			やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の自由記述によると、リレー形式であるがゆえに、毎回、講師とテーマが変わるために、科目全体として何をしているのかが見えなかったという記述があった。各講師が自分の担当テーマが科目全体の中でどういう位置づけであるかを明確に説明をする必要があった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生のコメントを読んでも、この科目の位置づけを理解していない学生が多いように思われる。総合人間の科目ということで、専門科目の担当が主である教員にとっても慣れないことが多く、この科目の位置づけを意識できないままに授業に臨んでいた可能性もあるのではなかろうか。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	すでに学部長、両学科長とでこの科目についての問題と解決法については協議を行い、学生が理解に苦しんでいた授業の進め方の統一性などについて一定の 方針を決めた。さらに協議を行い、授業の改善方法について具体案を出すことにする。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	取り上げたテーマ、授業の統一性については問題があると思われる。また、学生が授業に集中できるような環境づくりについても検討しなければならない。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	岡部 明仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生物と生命科学	1	前期	選択	はい	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	この地球上に生命が誕生して、約38億年が経過し多様な生物の出現と絶滅を経て、現在は数百万種の生物が存在している。その生命進化における生物の一員としてのヒトを認識し、それ以外の地球上の生命体の多様な生き方を知ることが、意義あることだと考えられる。生命の持つ共通性は、近年、より深く追及されその意味が明らかになりつつある。これと並行し、生命の多様性にも注目が集まり、急速にその知識が蓄積されており、生命の共通性と多様性について理解を深めていくとを目的とした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①今年度の結果 本試験の合格者は34名中33名であった(英語学科及び観光文化学科合わせて)。平均点は69.0±6.6点であり、標準的なレベル(概ね70点以上)に到達していると考えられる。理想的なレベル(概ね80点以上)に到達した学生が一人もいなかったことは反省すべき点である。 ②学生による授業評価においては、最終講義日が災害による振り替えで土曜日になったこともあり、履修者の半数以上が欠席していたので、正しい評価とは考えられない。 ③「図書館、インターネットの利用」が非常に少なかったので、課題を与えて図書館等の利用を促したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は「学部共通科目の基礎教養科目」であり、選択科目である。生活するうえで、必要な或いは普遍的な身につけておく必要のある科目と考えているが、高校で習得した生物基礎すら記憶に残っていない学生もいたようである。しかしながら、一定の成績を収めていることから、内容は妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標から見ての内容の妥当性 成績評価と学習到達度についての学生の自己評価からみて、目標を標準的なレベルでほぼ達成できたので、内容的には妥当であったと考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性は問題ないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	選択科目であるという性格上、基本的には厳しく対応することは避けたが、受講態度は目に余る学生が多く、自分の力不足を痛感させられた。文系学部 of 講義を担当したのが初めてだったということもあり、大変困惑した。経験豊富な先生が行えば、もっと学生にも響く講義が行われるのではないかと期待している。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学部共通科目の基礎教養分野にあたる本科目の位置づけから、知識理解度について定期試験の結果からほとんどの学生が最低限のレベルで取り組んだものと判断できることから、概ね標準的なレベルをクリアできたものとする。講義時間中の質疑応答は、比較的自由に行えるようにしていたが、事例について学生同士でじっくり時間を取って検討し、発表する時間がなかった。ただ、こちらから問いかけても無反応或いは無視するといった反応もあり、お互いに信頼関係が築けなかったことは深く反省している。次年度、ご担当いただける先生に期待したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	齋藤 朗宏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
数学リテラシー	1	前期	選択	はい	5

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	事前準備としての事前クイズを実施し、予習の時間を確保すると同時に事後学習として、授業の最後にグループワークを実施した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	定期試験の結果から、不可となった学生が一定数いた。また、グループワークの内容からも、理解が不十分と思われる内容が多く見られたため。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1年生科目であり、単位数確保を目的とした履修者も多く、履修者側に位置づけが十分に伝わっていなかった可能性がある。そのため、内容の良しあしとは別に、授業の目的がうまく伝わっていなかった可能性があり改善を考えたい。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	グループワークについて、評価の公平性に対する疑問が一定数あったため、改善を考えたい(他の学生に任せきりで何もしない学生がそれなりにいたようだ)。また、事前クイズについては、採点の対象外としていたが、事前クイズへの回答も成績評価に加えることで、予習の学習量を増やしたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	開講初年度ということで、学生も私も手探りの部分があったが、数学という科目の特性もあり、簡単に感じる目標レベルまで楽に到達できる人と、難しく感じそうでない人との差が大きかったように思える。この部分の調整は難しいが、レベルの高い学生への追加課題などで対応することを考えたい。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	篠原 征子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
中国語入門	1	前期	選択	いいえ	47

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は中国語の基礎知識を学習するものである。初心者にとって外国語は難しい、とくに発音の難しい中国語は、挫折しやすい。授業の実施にあたり大切にしていたことは学習者により学習習慣を身に付けさせ、楽しく学ばせることである。今回の受講動機をみると「関心のある内容である」が70%であり、よいスタートであったと感じた。授業ではちょっとハードな発音練習のあと、中国の文化や風習、考え方、最新事情なども紹介したりして、学習者のモチベーションを高め、さらに関心を引き付けるようにしている。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均は84点であり、標準的なレベルに達し、理想的レベルまであと少しであると言える。 学生による到達度自己評価において、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値は4.5で、中央値は5.0であり、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値は4.3で、中央値は4.0であった。2つの項目に差があったということは知識は概ね理解しているが、表現することはまだ難しいと考える。コミュニケーション力や表現力をより効果的にアップさせる方法についてさらに検討したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容の妥当性 本科目は「総合人間科学」に属する選択科目であるが、観光文化学科の「専門教育科目――中国語通訳ガイド演習や観光中国語など」の基礎となる重要な位置にある。この段階で学生により学習習慣を付けさせ、中国語の基礎知識をしっかりと把握させ、分かる、できる、通じるという喜びを感じさせ、中国語大好き人間にさせることが最も重要だと考えて授業を進めた。学生も優秀な成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみても内容の妥当性 「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の項目の平均値は4.3、中央値は4.0であり、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の2項目の中央値が共に4.0であることからみて、内容的には妥当であったと考えられる。 ③自由記述の意見 自由記述は「ありがとうございました」のみであった。この記述からみても、内容的には妥当であったと考えられる。 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習者の学習状況を常に確認し、無理のないように授業を進めていた。 また、授業の質評価において、5項目の平均値はすべて4.4以上で、中央値は4項目5.0であったことから授業の進め方は妥当であったと考えられる。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	「総合人間科学」の一科目として、それから「専門教育科目――中国語通訳ガイド演習及び観光中国語」を受講するに必要な予備知識としての本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できた。 来年度に向けての課題は、学習者の心理をしっかり把握し、学習者に合った教授法を研究することである。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	金 光子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハングル入門	1	前期	選択	いいえ	54

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	韓国語が初めての受講者が多いことから、ハングル文字でつまづかないように経験上理解しにくいところを先回りして解説するなど、わかりやすい授業を第一に心がけた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	毎回行う小テストで、初回あたりは全員の平均点はあまり高くなかったが、徐々にハングル文字のコツをつかみ出して学期後半においては皆が高い平均点を出せるようになった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本講義は語学学習を通じて韓国という国・地域に興味をもち、言葉に現れる文化の違いなどを理解し、また実際に韓国語を話すことによって異文化への理解を深めながら学習が可能になったと思うので、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性は問題ないと思う。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進度は毎回行う小テストや課題の出来具合をしっかりと把握し、つまづいている受講者がいれば個人的に指導にあたったりもした。最終テストでは全員の平均点が高く語学の基礎的レベルには十分に達したと思う。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本講義ではハングル文字の書き方、正確な発音など、これからの発展的な語学学習の重要な基礎を身につけることができ、韓国語でのコミュニケーションの第一歩を確実に踏み出せたと思う。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	本間 学

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
メディアリテラシー	1	前期	選択	はい	62

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	英語学科と観光文化学科で合同の選択科目であり、さらに学生のスキルの幅も大きいことが予想されたことから初心者を中心として時間を掛けて説明し課題を設定した。 今回の受講動機をみると「関心のある内容」が41.8%、「単位数を確保する」が80.0%と、かなり消極的な理由から受講した学生が多いことが示唆するものであった。できるだけ具体的な例を挙げて、関心を持たせることをしてきた。 ①著作権、SNSの利用、スマートフォン利用に関して動画を利用して理解を深める工夫をした。 ②著作権、SNSの利用、スマートフォン利用およびメール等の文書作成の理解度を測るため小テストを実施した。 ③PowerPointでプレゼンテーションにおいて個人の技術習得を目指し個人毎にプレゼンテーションを作成しグループ毎で全員が発表した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の成績の平均値は83.6であり標準偏差は6.5であった。成績は課題(50%)、小テスト(20%)、プレゼンテーション(30%)として評価した課題の提出、出席状況、およびプレゼンテーションの発表状況は良く、理想レベル(80点以上)は上まわっているので良しとすべきだろう。 学生の到達度自己評価の平均値は3.2～4.1と学科に比し低い、「まあまあ」と「わりに」にのみ集中しているので、善くも悪くもなかったという実感ではないかと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科学」であり、選択科目である。大学のカリキュラムポリシーにIT活用能力が含まれること、および成績評価から内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から達成度は十分と判断出来ることから、内容的には妥当であると考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「自分なりの目標を達成した」の平均が4.0、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が4.1と高かった。学生の成績を踏まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。次年度に向けては、さらに知識を深める努力をするとともに、質問がもっと増え、学生がより積極的に授業に参加できるよう改善していきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	課題の提出率が非常に高かったことから、授業目標達成のためのプロセス遂行は、問題なく行われたと考えられる。ただし、授業過程を振り返ってみたとき、学生同士、学生と教員でのコミュニケーションをとる時間が足りなかったことが到達度自己評価、授業の質評価から分かったのでコミュニケーションを取る機会を増やす工夫として学生からの教員への質問カードや学生同士の発表の時間を作るような時間を作るなど、来年度に改善を行いたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	花沢 明俊

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報処理基礎	1	前期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	高校までの学習状況で、パソコンの扱いに慣れている学生とそうでない学生が混在しているため、課題を平易なものから高度なものまで段階的に用意し、高度な課題の一部は上級者のみを対象としたオプション扱いとした。15回の授業回数のうち、中間試験を含む第8回までは基礎技術の習得を行い、第9回以降はグループワークによる実践的な取り組みとすることで、学習意欲の継続と学習内容に対する興味喚起に努めた。 情報関連の知識・技術が今後の学生生活や就職後に必須であることを理解できるよう、課題の内容を工夫した。 また、後半のグループワークでは、創造性やコミュニケーション能力の育成といったグループワーク一般の目的に加え、各自が目指す職業の社会的意義や多様な活動についての情報収集を通し、職業そのものおよび身につけておくべき情報技術について、理解を深め実感を得られるよう学習プロセスをデザインした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績点は、課題の提出やプレゼンテーションなどのプロセス評価50%と、中間・期末試験の点数による達成度評価50%から構成されているが、課題の提出率が非常に高く、目標達成のためのプロセス遂行が確実に行われた。結果として、試験の点数も全体的に良好であった。 授業アンケートの到達度自己評価の項目のうち、本科目に特に関係する(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、の結果は良好であった。 学習量の評価については、テキストによる予習を推奨したが、授業アンケートの結果から実際の予習回数は低率であった。予習とリンクした課題を設ける等の改善策を検討したい。授業外の課題を行っている学生は少ないが、これは授業の課題量が多く、一部は宿題となるため、授業外の課題を行う必要性は少ないと考えている。実際、自由記述に「必要ない」という記述が多い。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、全ての学科に存在する学科横断的科目であり、在学中のレポート作成や発表など様々な場面で必要となる。さらには、就職後の実務において、全学科の学生が要求される内容である。このような観点から、学生それぞれの学習準備性の高低にかかわらず、全員がある一定レベルの技術水準を達成すること、授業終了後も技術習得を継続できるよう、受動学習だけではなくグループワークによる能動学習を行うこと、これら2点を柱としている。授業の妥当性が真に問われるのは、3年生、4年生の実践の機会や、就職後であり、このような将来の展望から必要性を理解した受講動機の割合は少ないが、授業を通して理解されるよう努めている。実際、到達度自己評価の項目のうち、(7)自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた、の結果は良好であった。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	図書館利用で、図書や学術データベースの利用が低率であったことから、これらの利用について、明示的に指示した課題等を設定する必要があった。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	課題の提出率が非常に高かったことから、授業目標達成のためのプロセス遂行は、問題なく行われたと考えられる。また、結果として試験においても全体的に高得点であり、高い達成度が得られた。授業アンケートの受講動機において、将来への展望に欠ける回答が多いため、受講動機に対してより訴求性のあるシラバスに改善し、授業内容そのものも、より学習動機を理解しやすいものとしたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ボランティア概論	1	前期	選択	はい	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講では、ボランティアや地域貢献活動等の理論や実践について学びを深めるとともに、自らボランティアに参加したりすることにより、自分自身の社会的有効性や存在価値を見出し、豊かな人生を目指すことを目的としたものである。全8回の講義中、現在進行形で活動しておられる、外部講師を5団体招聘して、リアル講義の工夫をした。 特に自分自身で活動を行いたいと思うような気持ちを膨らませられるよう、質疑応答の時間を多く設けるように工夫した。 初回講義の時には、この講義で何をするかということ、ペーパーにして配布し詳細の説明をした。心構えと題してのペーパー(内容は休まない、協力する等の再確認、外部講師の方々へのマナー礼儀の確認)を配布して関心をもたせた。また、毎回、リアクションペーパーの記入で、自分が何をどんな風に学んだかを振り返る時間を必ず設け、考えたことを文章にて表現させた、
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体を通して目標の達成度が達成されたという根拠は、欠席が非常に少なかったということが考えられる。そのことで、学生の意識をしっかりと受け止めることができたと感じている。また、リアクションペーパーの中には、楽しい授業であった、普通では知ることができないことを学べた、実際にボランティアを始めた、等々の記載内容のものが多かった。当然楽しいだけではいけないので、毎回必ず振り返りを教員と学生と一緒にやって、このボランティア概論の意義と必要性を高めた。そのようなことから、最終的には全員が学びと感動を深めることができ、理想的レベルまで達成できたものと考え。 講義時間内だけのものになってしまう可能性もあるので、外部講師(ゲストスピーカー)の団体の事前学習の課題を与え、考えさせて興味を持たせるよう工夫して行った。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性については、学生の授業評価アンケートの評価や、最終報告から見て、内容としては妥当と考えられる。DP、行動目標から見ての内容的妥当性に関しても同様で、内容的には妥当であったと思われる。以上のことから、内容的妥当性に関しては問題ないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	「授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」で、「することがなかった」という回答があった。 地域貢献や社会活動、ボランティア等々の重要性について、より具体的に社会の中での状況を興味深く話していき、可能な限りリアルに伝えるようにして、講義以外 の時間でも振り返ることができるような意識付けを深めていきたい。 事前の課題をほぼ毎回課したので、インターネットの利用が多かった。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本講においては、学生からの自己評価やアクションペーパー、最終講義の時の全体的感想によって、その達成は理想的レベルであると考えられる。 講義内容もゲストスピーカーの方々のご協力を得て、シラバス通りに進めた。 次年度も同様な内容で進めていこうと考えるが、時代をキャッチした内容の講義を展開していきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	劉 明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
観光学入門	1	前期	必修	いいえ	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 受講動機をみると「必修科目である」75%、「関心のある内容である」50%、「単位数を確保する」43.8%となっております。学生の関心を引き出し、多くの学生が勉強したい科目になるように、シラバスの作成や授業の準備に工夫する必要があると思う。 ②最初の授業にシラバス内容の確認や学生との意見交換を行った。 ③演習の7回目に小テスト(レポート提出)を行い、学習状況と学生の意欲・能力を確認するようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は90.2点であり、再試対象は0名であった。全員が理想的レベルに達したと思われる。 目標別に見ると、知識理解に関しては75%、態度に関しては100%、技能表現に関する問題は96.8%であった。それぞれの目標が達成されたことを示している。 学生による授業評価においては、知識理解、態度、技能表現の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。 図書館、インターネットの利用に関しては、それぞれ、15.6%、50%で、図書館とインターネットの利用については、さらに指導することを考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解、態度、技能表現に関する達成度が理想のレベルに達していることが示されているし、内容的には妥当であったと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「観光学入門」であるが、「観光系の授業の基礎」をつなぐ要の位置にある。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、評価が良かったが、「説明は理解しやすいものであった」100%、「評価基準は明らかであった」96.8%、「学習の範囲や課題は明らかであった」の平均が93.7%となっております。次年度に向けては、学生がもっと積極的に参加することが出来る機会・環境を作りたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	「観光系の授業の基礎」をつなぐ要の位置にある「観光学入門」であるから、学生がもっと積極的に参加する機会・環境づくりを図りたい。 また、学生の知識理解、態度、技能表現を高めるために、授業中に話し合う、発表を行う時間を増やすようにしたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	友原 嘉彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
観光学入門	1	前期	必修	はい	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は1年次配当の必修科目であり、1年生を中心とした履修者をもう一人の教員と二分し(計2クラス)、当方はそのうちの1クラスを担当した。今回は2クラス同一のシラバスではなく、別々のものであったが、当方のクラスでは講義回数のうち、前半を観光学の基礎的な理論を紹介、後半を観光を見る目を涵養するため、観光に対する見方や考え方を取り上げている書籍をテキストとして用いた。本学科に入学して最初となる観光学の科目であるため、基礎力を身につけることを目的に、興味関心を喚起するよう心掛けた。授業にあたっては以下の工夫をした。 ①講義回数のうち前半は観光学の基礎的な理論を紹介したが、これについては学際的に地理学、社会学、経済学、経営学、哲学、歴史学など諸分野の知識を垣根を超えて取り上げ、様々な観点から観光を考える基盤作りを行なった。 ②2回に渡って中間レポートを課した。内容は観光の現象や業界についてであり、調べたものを(参考文献を明示し)まとめるだけでなく、そこから考えられることを盛り込んでもらう形とし、大学生として、まずは調べ、考える作業を行なってもらった。レポート点については60から95点まで幅が生じた(退学者や試験放棄者を除く全32名。満点100)。 ③期末試験は論述形式のものとし(持ち込み可)、一定の時間内で論理的・説得性のある文章を書いてもらうことを求めた。期末試験の点数については、13名が90点、9名が80点であった(全32名。満点100)。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない			どちらともいえない	どちらともいえない
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講者は36名であったが、上述のように、退学や欠席過多などによる試験放棄により、32名が成績付けをする該当者となった。1年生が受講者のメインであるとはいえ、(慣れない大学への通学の中で)1限の授業であり、授業内容も、調べ、考える作業を重視したため、受講生は苦勞もしたと考えるが、当該32名全員に単位を付与することができた。授業評価アンケート(回答者29名。以下同)によると、図書館の図書・雑誌を利用したのは6名、CiNiiなど学術データベースの使用は4名、インターネットを使用し、(一般的なサイトにより)検索などを行なった者は8名であった。この数値が物語っているように、本来は主体的に調べることを促した授業であったが、受講者達のうち、20%程度しかそれがなされていないことは残念であり、今後は積極的に促す必要があると考える。 一方、出席状況については、6名が皆勤、3名が1-2度の遅刻、4名が1度の欠席、2名が1度の欠席と1度の遅刻であり、約半数が皆勤や「準」皆勤と言え、図書館の利用に比べれば授業参加度は高いと考えられる。各課題や学期末試験の出来などから総合的に評価した結果、単位自体は退学者や定期試験受験不適合者以外の全32名に付与することができた。内訳は「秀」2名、「優」13名、「良」11名、「可」6名となった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	すでに上記の4で示したように、1年生がメインの受講生達はやる気に満ち、積極的なタイプと最低限度のみを行っていたタイプと大きく2つに分かれてしまった。成績で見ても、「秀」と「優」が計15名、「良」と「可」が計17名と、それが読み取れる。 授業評価アンケートによると、「受講動機」は「必修科目である」が86%(四捨五入。以下同)と最も高く、次は「関心のある内容である」と「単位数を確保する」の7%であり、大きく落ち込んだ。まず内容的に関心を持ってもらうよう、できるだけ易しく、しかし、知的好奇心の湧くようなレジュメ、テキストを考えなければならない。「到達度自己評価」は「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」や「職業倫理や行動規範(守るべきルールなど)」について学ぶことができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」、「職業選択の参考になった」など10項目あるが、すべて3.2から3.4の間であり、すべて中間評価である「まあまあそうだと思う」の前後だと確認された(5点満点)。中間的な範囲で僅か0.2ポイントの中に10項目すべてが詰め込まれている現状からは「可もなく、不可もなく」的なニュアンスが読み取れる。前述したように少しでも知的好奇心を喚起できるよう、難解な表現は避け、平易な言葉で言い換えるなど工夫したい。 なお、授業アンケートの自由記述では「学習量の評価(授業の課題以外に取り組んでいない理由)」について「授業手いっぱい」、「他の科目で忙しかったから」、「他の課題で忙しい」、「授業で理解したので」、「する事がなかったから」とあり、こちらもモチベーションの高低が二分されている。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。	授業で取り上げた内容は観光学の基盤となる知識についてであるが、すでに触れたようにモチベーションに関して言えば高低がきれいに二分してしまった感があり、また、モチベーションがあっても、1年生として大学の科目に慣れない中、ほかの科目の課題に注力し、その結果、本科目へ割く時間は減少してしまったことも授業アンケートからは読み取れる。内容的には日頃の予習、復習は欠かせないものであり、また、中間レポートを2度行なった中で、モチベーションの低めな学生にしても、もう少し情熱を傾けてくれるよう努力しなければならない。
<授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートによると、予習時間は0が最も多く13名であったが、30分は10名、1時間～1時間半は6名、3時間も1名いた。ここでも、0と少しでもしていた者で13:17とやはり二分されている。復習時間も0が最も多く13名であったが、こちらも、30分は12名、1時間～1時間半は4名、3時間は1名と、0と少しでもしていた者で13:17であった。ノートテイクも、していない者が11名、配布資料に書き込んだ者が18名、専用のノートにとった者が1名と、していない者:した者は11:19であった。授業の課題以外の学習に取り組んだ者は8名、取り組んでいない者は21名と、やはり総じてモチベーションの有無、そして、有であっても、忙しかったということが読み取れる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業評価アンケートの「授業の質評価」の結果が物語っている。5項目あるが、すべて四捨五入の3から4となっている(最高点5)。最高点は3.7で、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」である。次いで「期間内に行なうべき学習の範囲や課題は明らかであった」が3.5であった。最低点は3.2で「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」であった。このようにすべて「普通」の評価しか受けられず、受講生の誰もが知的好奇心を充足してもらったとは言えない状況であることに課題がある。なるべく意見の出やすい雰囲気作りやわかりやすいよう平易な言葉を増やすといった努力をしたい。上述の6で触れたように、まずはやる気の底上げをし、忙しい中でも本科目を優先してもらえよう努力したい(ある意味、優先されなかったのは担当者の創意工夫に課題があるだけでなく、厳しさが足りなかったとも言えよう)。
-----------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	宮原 英利

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
国内旅行実務	1	前期	選択	いいえ	64

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 国家試験受験に向けた科目であり、効率的に勉強が出来るよう、過去に出題の多かった条文、運賃の問題を重点的に行った。JRの運賃計算については、JRの規則を中心とした。観光地理は、自身で記述しながら記憶できるようにフォーマットを作成した。 2. これから観光関係への就職を考える上では必要と思われる内容であることから、広範囲の勉強ではあるが少しずつ理解を深めて行けたと思う。 3. 到達自己評価では、約半数以上の学生が判断する能力が付いたと評価していることは心強い限りである。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1. 国家試験の受験を目指す学生とそうでない学生との温度差はあったものの、JR運賃の規則や、日本各地の行事、文化を知り得たのは、今後の就職に向け弾みとなったと思う。 2. 出席率も良く途中で棄権する学生もいなかった。(経済的、その他本人の意思とは関係のない事柄を除く) 3. 達成度評価では、約7割が自己目標を達成できたと評価していた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1. 国家試験のための講座ではあるが、広く一般社会の知識習得においては、かなり有効な科目と思われる。 2. 今後、観光関係の就職を目指す学生に取っては、強制的ではあるが、必要不可欠な知識の習得の場として、また人間力(一般常識の習得)をつける一助となる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	1. 実務知識の習得を目指す科目であることから、試験対策に重点を置いた。 2. 小テストなどを通じて理解度を把握できた。 3. 上記でも述べさせていた でしたが、受験を真剣に目指す学生とそうでない学生との温度差は否めない。 4. 大変真剣に、かつ真面目に授業を受けてくれました。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	1. 国家試験を受験する目的で受講した学生にとっては、合格点に達するように指導していきたいです。そのためには、この科目だけでなく幅広い、かつかなり難しい 科目もあることから、2年くらいの継続性のある授業配分が考えられると、効果的と考える。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	宮原 英利

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
観光関連法規	1	前期	選択	いいえ	63

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 国家試験対策講座であること。従って、特に試験を受けない学生については、本講座は、観光関連事業に関わらず、他の分野でも、知っておくと大変有意義であることを説明した。 2. 法律の条文解説から入る為、1年生で、かつ法律用語に不慣れであることから用語の理解、及び言い回しの理解に重点を置いた。 3. 小テストを実施し、事前学習や事後学習が理解力を増すことにつなげた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	● E評価以下の学生は大変少なく、良く授業を理解してくれていた。授業態度も大変良く授業の妨げとなる学生もおらず、授業に打ち込めた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	● 国家試験対策講座ではあるが、広く観光関連事業への就職を目指すためには、事業内容の関連性の把握ができ、有意義である。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	● 入学すぐの1年生にとっては法律用語の理解はかなり負担である。従って、まず、法律用語の理解、次に実例を交えて平易な言葉で解説を行い、小テストで理 解を深めるように授業を進めた。 ● 国家試験を目指さない学生を含め、良く授業についてきていた(授業評価⑤ 理解の確認)
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	● 国家試験受験を真剣に考えている学生と、そうでない学生とが混在するが、受験を考えていない学生でも観光関連事業へ活かすことのできる本講義を十分認識 してくれたと思っている。 ● 課題としては、合格率アップを目指すため、継続授業が出来ないものか。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	須藤 秀夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本経済入門	1	前期	選択	はい	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	・大切にしていることは、①学生が日本経済の事象に関心をもつこと、従って、経済に関する記事に目が行くようになること、②今年起きている日本経済の出来事や最新のデータを示しつつ、どういう意味を持つのか理解させること、③経済事象Aが起こると、次にどういう経済事象Bが起こるのか、といった経済的な因果関係、連動の関係を理解させること、などである。 ・授業計画では、広く日本の経済社会の諸事象を取り上げ、関心をもつこと、学ぼうとすることのきっかけを作ろうとした。授業準備では最新の新聞報道などの情報やデータを伝えることに努めた。例えば、学生にとって関心のある景気動向、人口動向、就職環境などを取り上げた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・「全体を通して」について、学生の「自分なりの目標達成」は3.9と良好であるが、4.0未満なので、「やや達成された」と考える。また、成績評価総合点の平均は、80.5点(30名)(うち90点以上8名)であるので、この点からも同様に、「やや達成された」と言えると思う。 ・「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.1であり、また、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」は3.9なので、知識理解は「達成された」と考える。「的確に判断する力を得ることができた」は3.7であり、思考判断は「やや達成された」。「学びを深めたいと意欲をもつことができた」は、3.8であり、また、「職業選択の参考になった」は3.8であり、意欲関心は「やや達成された」と考える。「関心のある内容である」ので受講したという学生が57.1%となっており、やる気をもって受講してくれたことは喜ばしい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	観光文化学科のDPにて、「社会科学の特定の専門分野における基礎的知識と運用能力」、「社会科学の特定の学問領域において、的確な考察および判断」、「国際的視野」「現代社会の諸問題」「社会人としての基礎的な学力」「現代社会の実態を学際的な視点でとらえる能力」等が言及されているが、本科目はこれらのDP実現に資すると考える。この点、および学生の上記到達度自己評価、上記の学生の一定の成績から、内容的には妥当と思考する。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	・経済の理論より実際に日本の経済社会で起きている事象の理解に重きを置いた。また、初めて経済を学ぶ学生(1年生)が多いことから、理論・理屈についても(例 えば、需要と供給など)十分説明して理解を向上させるように努めた。「経済はむずかしい」との学生コメントも聞かれたが、授業時間に受け取った質問票に丁寧に答 えることで対応してきたと思う。授業評価では「説明は理解しやすい」が3.8であり、まずまずであったと思う。 ・授業評価での学生からの意見については、特段コメントしなければならないもの はなかったと考えている。上級生と異なり、この授業では学生に前の方に詰めて座ってもらったので、結構注意力を高めて聞いてもらえたかもしれない。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	・受講生が質問を多く寄せるなど、前向きに熱心に取り組んでくれたので、成績にも表れているように、一定の成果はあったかと思う。来年度私は本科目を担当しな いが、この授業で学んだこと、少なくともキーワードは、時事ニュースなどで出てきた場合、授業で扱っていたな、と思い起こしてほしい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	林 裕二

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎英語	1	前期	必修	はい	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①授業外の活動として英語の多読活動・E-learning も評価に入れることをシラバスに示していた。これらの活動については、二回の説明を行なった。一回目は、入学式後のオリエンテーション期間中に、多読は一学年を一括して、E-learninは学年を二つに分けて説明会を開催した。一回目の授業(＝オリエンテーション)では「追加シラバス」を配布して、詳細に説明した。多読のウィークリーレポートは9週分以上を提出することを求めた。これについては一回目の授業で一週間分の印刷物を配布して、二週間以降の分はメールで添付で送った書式を自分で印刷して使うように伝えた。 ②1年生の必修科目であり、授業評価アンケート(回収は31名)の「1. 受講動機」では、①必修科目である(96.8%)が一番であるが、③関心のある内容である(12.9%)、⑦先輩に勧められた(3.2%)も、少ないながらもことから、内発的動機をもつ者もいることを示している。 ③知識注入型の一方的な講義ではなく、学生自身の学習目標発見、問題解決型の学習姿勢を育てることができるように、ペア学習で作った会話に基づく演技を最終回ではスマホの動画機能を活用して撮影・再生させた。学生に相互に会話の動画を評価させることを行なった。スマホの動画機能を使う方法は、他の教員の語学授業での実践例を参考にして取り入れた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績の評価割合は、A(25.8%)、B(29%)、C(38.7%)、D(3.2%)で、E(3.2%)である。A、Bで54.8%(17名)となっており、優秀な成績を残している。 ②DP別では、授業評価の2. 到達度自己評価の「(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が、「⑤かなりそう思う」の中では、最多(12名)である。また、「(3)事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることができた」では、「④わりにそうおもう」と「⑤かなりそう思う」で合計20名である。これらのことからDP1(知識理解)は、やや達成されたと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①1年生の前期の英語の必修科目である。英語が好きな学生は、その関心を刺激して自主的な学びの姿勢を更に強化できるように、そして英語が好きではない学生にも参加できる部分を多く提供する授業を置いている。今後の英語の授業の基礎となるので、カリキュラムマップ上のこの配置は妥当である。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学生の自己評価中の「学生の意見」には、4. 学習量の評価(4)授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由として、「課題が多かったから」「手いっぱいだったから」とある。確かに入学直後の学期に大学の授業に慣れる必要がある時期には、負担の大きな授業だったかもしれない。改善方策としては、英語の多読については、部分点の基準を示しておくのも一つの策かもしれない。 ②授業アンケートの3. 授業の質評価では、五項目の平均は、4.22である。(5)口頭、文書など、なんらかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていたが、「③まあまあそうだと思う」から「⑤かなりそう思う」までを全員が選んでいる。非常に時間がかかる取り組みではあるが、学生に考えさせて書かせたレポートを再提出、再々提出までさせて、仕上げさせていく多読活動については、学生も大変だろうが、有意義であるとする。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	①一般的には、読書量が決定的に不足している学生が非常に多い。この場合の読書量とは英語ではなく、日本語についてである。大学入学までは教科書以外の英語の本については、まずは読書経験がないとの前提で、英語の多読活動を始めさせている。DPIは(1)知識理解であるが、最終的には授業外の時間でも自主的に学習できることが、このDPを満足させることにつながる。 ②ここ数年の新入生については、PCIについてのリタラシーが低下してきていることが課題である。。PCではなくスマホ利用が主流になってきた影響である。この科目は語学ではあるが、PC利用のE-learningも取り入れている。2年次の英語の必修科目(マルチメディアイングリッシュ基礎・応用)での学習が円滑になされるためにも、もう少し情報リタラシーを底上げしておく必要がある。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	末廣 幸恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎英語	1	前期	必修	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	指定教科書「Portraits of Japan」は学科CPの英語・日本などに関するグローバルな知識と思考能力などを養う教材として適していると思われる。教科書の難易度の観点から、和訳の予習は不可欠な為、準備した和訳用紙を学生に配布し予習を徹底化した。和訳用紙には単語欄と和訳欄と評価欄を設け、各自で和訳用紙を作成するように指導した。また予習時における達成感および難易度を認識させるために、達成マークを評価欄に記入するように指導した。ちなみに達成マークはABC段階で表記した。この予習に基づき、授業において、予習した範囲の和訳を学生に発表させ、全員で確認作業を行い、和訳の修正および加筆を行った。この作業と同時に、授業では難易度の高い英文の文法解説、内容に関する補足説明を行った。和訳用紙は毎回、授業後に回収し、各学生の学習意欲および理解度を確認する作業を行った。また学期末には完成させた全和訳の提出を義務付けた。「TOEIC単語集」に関しては、毎回の授業で小テストを行った。その際、単語の発音、反意語、同義語の解説を行い、学生の暗記作業の効率化に努めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は86点であり、再試対象者は2名であった。必須科目のため、DPの評価において、大多数の学生が真剣に取り組んだことが推測される。特に「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「課題を検討する力を得ることができた」「的確に判断する力を得ることができた」「意欲を深めることができた」等を高く評価した学生が多かった。これらは予習のチェックを厳しくし、達成度を認識させたこと、教科書に書かれている文化的背景の補助的解説を行ったことから、自分なりの目標を達成できた学生が大多数であったからだと考えられる。全体的に英語学習に対して前向きに努力する学生が多く、クラス全体も意欲的な雰囲気形成されたようである。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性:長文の読解ができる、習慣として英文を読むことができるなどは多読レポート提出義務や和訳の予習、TOEIC単語暗記等で大多数の学生が体得できたと思われる。②DP.行動目標からみた内容的妥当性:DPの評価に関しては大多数の学生が各項目について高い評価を示していることから授業内容に納得していると考えられる。特に「職業倫理や行動規範について学ぶ」「職業選択の選択参考」の項目は、他科目及び他学科においては比較的低い評価を示す学生が多い中、本科目においては高評価を示している。以上のことから本科目の目的にかなっている判断し、内容的妥当性には問題がないと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価:「テスト、レポート、提出物の評価基準」「学習の範囲や課題の明らかさ」は評価が高く、オリエンテーションでの説明と授業中での指示を理解していたと考えられる。「説明は理解しやすかった」も評価が高かったが、これは学生の英語力のレベルがほぼ同程度で過剰な説明だと感じる学生、あるいは簡略化されすぎて説明不足と感じる学生が少なかったからだと考えられる。②学習量の評価: 予習に一時間以上の時間を要した学生が6割、復習は6割の学生が行ってなかった。このことから課題に多くの時間を取られていることが分かる。確かに和訳、多読、単語暗記と課題はかなりの量であったが、真面目に取り組んでいたことが成績評価に表れている。③情報利用: シラバスを参考にした学生は半数であり、シラバスあるいはオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた学生も半数以上であった。しかし、新1年生であることから、シラバスの内容理解にまでは至っておらず、オリエンテーションにおける授業計画を的確に明確に伝える必要性を強く感じた。④図書館利用: 大多数の学生が図書館利用を行っていなかった。新1年生の中には大学における英語学習を受験英語の延長と考えている学生が多く、図書館利用とは無縁だと考えている学生もいる。オリエンテーションにおいて授業内容の説明だけでなく、多彩な内容を英語で学習するためには情報収集も大切な語学学習の一つであることを指導する必要があると感じた。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	教科書の難易度が比較的高かったために、予習や自己学習で苦勞している学生が多かった。しかし、知らない単語や語彙は必ず調べてくるようにと指導したので、授業中に文法解説、内容などの補助的な説明をすると自力で和訳ができ、学期末の和訳用紙には全ての書き込みを完了していた。これが学生の自己達成度が高い評価を示す結果となったと考えられる。また、多くの課題や難解な和訳に挑戦する姿勢がクラス全体に形成されていたこともプラスに作用したと考えられる。学年やクラスの雰囲気によっては、多くの課題や難解な問題を敬遠する場合もあるが、これをいかに学生の達成感へと繋げるかが今後の重要な課題となると考えられる。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	神崎 明坤

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
入門中国語会話	1	前期	選択	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①一年生を対象とする授業で、全員が中国語初めての学習なので、中国語の特徴と学習方法を説明する。中国語の発音、基本文法の学習、会話の練習を中心として、中国語の言葉話し方、習慣の表現などの特徴を理解させ、基本応用能力を身に付けさせます。更に中国語に対する理解を深めるために、中国の歴史、文化、中国事情を適宜に紹介する。 ②学生の学習への意識を高め、学習状況を確認するため、ユニットごとに確認テストを行う。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は89点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね90点以上として試験を作成)に達したものは14名となった。 学生による授業評価においては、「知識を確認、修正したい、新た得るところができた観点での自己評価にかなりそうだと思う」と「新しい知識を身に付けたと考えられる」。「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意識をもつことができた」。「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」においてはそれぞれ30名と高かった技能表現に達している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性。 本科目は「専門教育科目」であるが、「専門基礎科目」と「専門基幹科目」をつなぐ要の位置にある。内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性。 異文化、多言語の領域の成績は上昇したことからも内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上からの内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、 「テスト、レポート、提出物など評価基準は明らかであった」 「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」 「説明は理解しやすいものであった」 「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生参加する機会が作られていた」 「口頭。文書などで学生の質問を受け付け、答える機会が作られていた」については高く示されていた。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	専門応用科目の入り口にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形式については概ね達成できたが、コミュニケーション能力の面で課題を残した。この点は「専門基幹科目」で結びつき、引き続いて指導する予定である。 学生に中国語で日記を書いてもらっているが、来年度により綿密に実施することを行いたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	陳 青鳳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
実用中国語会話	1	前期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 実用中国語会話の概要及び達成すべき目標とは、「正確に現代標準中国語の発音を習得する。基礎的な文法を学び、初級の日常的な会話表現を養成する。中国語の学びを通して、中国の文化や風習などを知る」ということである。学生の「受講動機」においては④「単位数を確保する」の53.8%を除いて、③「関心のある内容である」は100%であった。このことから、本講義の目標を達成していたと考えることができる。 2. 受講人数がかなり少ない点については、ほかの専門科目と同じ曜日・時限にならないよう、次年度の時間割調整においてもう少し考慮していく必要があると考える。 3. 「教員とのコミュニケーションが取れる」という学生の意見から、これからの授業でも、できる限り学生一人一人と会話できる場面を増やしていくことができるように工夫したい。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1. 最終的な成績の平均値は「82.1点」であった。標準的レベルを超えて、理想的なレベル(定期試験及び平常点の総合として80点以上)に達していた。 2. (DP-1)の知識理解、(DP-3)の意欲関心、(DP-5)の技能表現をみると、将来の地域社会を支えるための基本的知識、つまり国際社会で人と自由に会話を交わすことができる能力を初歩的に習得していた。 3. 学生による授業評価においては、授業に参加するために、1回30分程度で週2回の復習を行っていた。また、授業の記録作成にも自分なりのノートを作成したという成果が見られた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の学習到達度評価をみると、「自分なりの目標を達成した」は平均点4.4点、また、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は平均点4.6点であった。以上のことから、自信を持ち、新たに知識を得ようとする学生の姿勢は評価すべきものであり、内容的妥当性には問題はないと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	1.「授業の質の評価」について、値的にはかなり良く、特に問題はないと思われる。 2.「授業の量」については授業外の学習はほとんどなかったことから、次 年度に向けては具体的な課題を提示するよう改善していく。 3.「図書館やインターネット等の利用」はほとんどないという結果がでていた。授業と関連している知識 やデータも重要視すべきであることを学生に喚起し、積極的に利用できるように促していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	1. 実用中国語会話は選択科目であり、基礎知識の形成については概ね達成できた。 2. 語学の授業なので「話す・聞く・読む・書く」という4つの基本学習をしつ かりと習得できるよう、毎回の授業でこれらの項目に合わせた内容を取り入れていきたい。 3. 授業で学んだ内容によって、国際社会で人と会話を交わせる能力を、 身につけられるよう、養成していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	友原 嘉彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
比較文化論	1	前期	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目では文化の中でも集団性の文化・考え方をクローズアップした。日独における集団主義の歴史を学び、それが起こるメカニズムについて検討、特に日本においては現代まで脈々と続く連鎖をどう断ち切っていくのかということについてまで全員で考えた。これにかかり、以下の工夫をした。 ①日本については受講生もこれまでの学びにおいてある程度の知識もあるが、ドイツについては（特に世界史を学んでこなかった学生にとっては）あまり馴染みがないだろうと考え、教科書として、浜本隆志(2004)『魔女とカルトのドイツ史』講談社を用いた。全員、用意してもらったのはもちろん、予習として予め授業で進みそうなところまで読んでもらうことで、語彙の発音や意味の理解がなされた。 ②3回に渡って中間レポートを課した。内容は主として日独における集団主義の比較であり、上記①で触れたように、授業ではメインとしては教科書の輪読であったため、日本についての詳細な部分はここで主体的に調べてもらった。レポート点については全員70から95点であった（満点100）。 ③期末試験は論述形式のものとし（持ち込み可）、一定の時間内で論理的・説得性のある文章を書いてもらうことを求めた。期末試験の点数については、1名が60点であったものの、ほかは70点から90点を取ってくれた（満点100）。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された			達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講者は10名（途中退学者除く）であり、1名が3年生のほかは全員1年生であった。このように、入学まもない者が多い中で、調べ、考える作業を重視したため、予習復習等1人1人の負担も大きかったかもしれない。授業評価アンケート（回答者9名。以下同）によると、うち8名が図書館の図書・雑誌の利用をし、7名がインターネットを使用し、（一般的なサイトにより）検索などを行なった。一方、CiNiiなど学術データベースの使用については3名にとどまった。この辺りは学期が進むごとにこの比率が上がるような授業内容としたい。 10名とも授業に際して概してしっかり取り組んでくれたと言える。出席率は最も芳しくない者でも、2度の欠席と1度の遅刻であった（2名）。皆勤は3名であった。予習・授業・復習を通して主体性も見られた。各課題や学期末試験も熱心に取り組んでくれた結果、10名全員に単位を付与することができた。内訳は「秀」3名、「優」4名、「良」3名であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	すでに上記の3、4で示したように、1年生がメインの受講生達は学術へのフレッシュな気持ちもあり、授業内容について十分に学んでくれた。 授業評価アンケートによると、「受講動機」は「単位数を確保する」が選択率78%（小数点第一位を四捨五入。以下同）で最も高かった。次に、「関心のある内容である」が33%で、3名に1名は受講前より関心を持ってきていたことがわかる。「到達度自己評価」は1項目を除き、四捨五入の4以上である（5点満点）。最高は「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の4.4であり、「常識・マナー・みんながしている」といった考え方をうまく覆すことができたと認識している。一方、「職業選択の参考になった」は3.3であったが、これはそのような性格の授業ではないため仕方ない。 このように、真摯に取り組んでもらったため、授業も行ないやすかった。なお、授業アンケートの自由記述では「授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習」として、「本よんだ」（原文ママ）、「レポートのための調べ物」が挙げられた。前者のように本を手取るという習慣も身に付けてもらえたかと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業で使った教科書は研究者である大学教員が執筆した新書であり、内容を集団主義に絞っているとはいえ、ドイツ史の通史的な面もあるため、高校で世界史を選択していない者にとっては内容的に易しくはなかったと考える。しかしだからこそ、日頃の予習、復習は欠かせず、また、中間レポートを3度行なった中で、受講生達は十分に努力して準備してくれた。授業評価アンケートによると、予習時間は1時間～1時間半としたものが8名、復習時間も同時間数が6名であった。一方、復習時間は0も2名おり、先に挙げた「良」の3名と重なるかどうかはわからないが、少しでも復習に至るよう、あまねくおもしろさを喚起できることが課題である。 ノートは取った者が5名であったが、取っていないものも3名いた。これも成績が「良」の3名とも重なっているかもしれないが、ノートを取っていない者にも取ってもらえるよう工夫することが必要である。なお、授業以外の課題にも3名取り組んでもらうことができた。この点で「秀」3名、「良」3名と若干差が生じてしまったことは残念である。次の学期に向けて差が縮まるよう努力したい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業評価アンケートの「授業の質評価」の結果が物語っている。5項目あるが、1項目を除き、すべて四捨五入の4以上である(最高点5)。最高点は4.4で、「期間内に行なうべき学習の範囲や課題は明らかであった」である。次点は「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の4.3であり、受講生には公平性を感じてもらうことができた。「説明は理解しやすいものであった」も4.1と評価された。一方、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は3.4にとどまった。なるべく意見の出やすい雰囲気作りに努めたものの、3年生がいたこともあり、メインの1年生は発言を躊躇してしまったのかもしれない。学年に囚われず自由に発言できる機会の創出を怠りなく努力したい。概して特に課題があったとは考えられず、10名という少人数クラスで時に和気藹々と、時に緊張感を持って、各回の授業をしっかりと遂行できた。受講生達との信頼関係も築くことができたと思う。受講者数が増えてもこのような形で運営したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	神崎 明坤

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
初級日本語	1	前期	選択	いいえ	2

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	異文化理解を深めるための日本語と日本文化を修得した、日本語によるコミュニケーション能力を高めるための幅広い知識と運用能力を修得している。具体的には新聞を朗読させて、記事内容説明、問題意識、講評という練習を繰り返すことによって、日本語の表現力を向上させた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学習到達度の自己評価については「自分なりの目標を達成した」、「新たに知識を得ることが出来た」、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身に付けることが出来た」について、留学生の二人ともに高い評価がされている。「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることが出来た」という高い評価は図書館利用するに多くなったと思われる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性。本科目は留学生にとって非常に大事な科目の位置である。内容的には妥当であると考え。②DP, 行動目標から見ての内容的妥当性。異文化、多言語の領域の成績は上昇したことから内容的には妥当であったと考える。③以上からの内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「レポート、提出物等の評価基準は明らかであった」「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」「授業中に自分の意見を纏める、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」「口頭、文章等、で学生の質問を受け付け、答える機会が作られていた。」の平均が5, 0と高かった。自発的学習においては「授業の課題以外に学習に取り組みましたか、」などの平均が5, 0と高かった。次年度にこのままに維持するつもりである。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	留学生にとって基礎的知識の形成については、概ね達成できたが、思考判断の面では課題を残した。以上から、毎回の狙いを具体的に示すこと、可能な限り考える時間を取ることや、課題復習を意識的に提示することなどで改善を図りたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	観光文化学科
氏名	友原 嘉彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
中級日本語	1	前期	選択	いいえ	2

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目では留学生にとってさまざまな場面で必要となる日本語力の四技能(話す、聞く、読む、書く)を総合的に高めるべく、以下の工夫をした。 ①教科書の輪読をメインとしたため、受講生が予習すること で、語彙の発音、意味の理解がなされた。また、授業では文法の用法など予習でどうしてもわからなかった点について詳しく解説することで、話す・聞く力もつけた。 ②4回に渡る漢字と外来語の 小テストにより、継続的に勉強する習慣をつけてもらった。理想としてはもう少し多くしたかったが、教科書内のあるトピックや語彙についての説明・コミュニケーション などに時間を取ったため、小テストの範囲としてまとまった分量(ページ数)になるまでに時間がかかった。 ③「書く」について は若干不十分だったかもしれない。具体的には1度の中間レポートと論述形式の期末試験にとどまった。今後はまとまった文章を数度というより、短くともなるべく回数を増やすことを考えたい。 ④また、単に日本語力の向上だけでなく、大学として学術的な内容で運営、各回「考える」という作業を促した。さらに、観光文化学科に留学してきた学生ということも考慮し、教材には観光学のテキスト(友原嘉彦編著『女性とツーリズム』、古今書院、2017年)を用いた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講者は2名(どちらも中国人)であり、少人数の中、上述のような密度の濃い授業としたため、予習復習等1人1人の負担も大きかったかもしれない。授業評価アンケートによると、2名ともが、図書館の図書・雑誌の利用、CiNiiなど学術データベースの使用、そのほかインターネットでの検索を行っており、熱心に予習復習してくれたことが窺える。これには昨年度の2名の留学生が授業で使った教科書(同一のもの)を評価し、薦めてくれたことも大きい。「先輩は『卒論の重要な先行研究です』と言っていました」と言ってくれた。また、CiNii Booksにも出身国を代表する学術系図書館である上海図書館に入れていることを知られ、自国でも評価を受けていることを知ったことも教科書での勉強に情熱を傾けてくれた理由と言えよう。 2名とも授業に際してしっかり取り組んでくれた。出席率は高く(1名が1度、1名が2度の欠席)、予習・授業・復習を通して主体性も見られた。各課題や学期末試験も熱心に取り組んでくれた結果、2名ともに「秀」の成績を付与することができた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	すでに上記の3、4で示したように、受講生は日本での生活、大学での学びに必要な語学力や考え方について充分に学んでくれた。 授業評価アンケートによると、「受講動機」は「関心のある内容である」、「単位数を確保する」が選択率100%であった。「到達度自己評価」は1項目を除き、4から4.5である(5点満点)。3.5であった1項目は「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」であり、抽象的であった点もあったかもしれない。 のように、真摯に取り組んでもらったため、授業も行ないやすかった。語学力の向上は「完璧」というのはないが、日本での日常生活はもちろん、大学での(特に観光学専門分野の)授業を理解する最低限の日本語力はしっかり身に付けてもらったと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業で使用した教科書は観光学の専門書であり、(日中以外も含む)国際的な事象も多く取り入れた内容であったため、内容的に易しくはなかったと考える。しかしだからこそ、日頃の予習、復習は欠かせず、また、小レポートや小テストも行なった中で、受講生は充分に努力して準備してくれた。授業評価アンケートによると、予習時間は平均1時間、復習時間は1名は30分程度だが、もう1名は2時間から2時間半であった。ノートもしっかり取っており、授業以外の課題にも2名とも取り組んだとのことである。これは上掲4(2)で示したように、図書館の書籍・雑誌やCiNiiなどの学術データベースの利用を通して、一般的な日本語力(文法の使い方、語彙の意味を調べるといったこと)の向上だけでなく、日本語を通した研究力をも涵養してくれたことではないかと認識している。なお、授業評価アンケートの自由記述欄は空欄であった。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業評価アンケートの「授業の質評価」の結果が物語っている。5項目あるが、すべて5から4である(5が最高点)。5は「説明は理解しやすいものであった」と「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」であり、これらの点で工夫が活きた。4であったのは「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」である。口頭での質問は随時答えていたので、やはり文書面であろう。意欲的な学生達であったので、添削を含むレポート課題を出す機会がもう少し取ればなお良かったと考える。しかし、概して特に課題があったとは考えられず、少人数クラスで時に和気藹々と、時に緊張感を持って、各回の授業をしっかりと遂行できた。この講義は良好な講義の「成功例」であるとも言えるが、慢心することなく、さらに充実したものができるよう教育力を上げる努力をして頑張りたい。
------------------------------	---